

館報 45



令和4年度（2022年度）
山口県立山口博物館

は じ め に

当館の歴史は、明治45年（1912年）に開館した防長教育博物館まで遡ります。大正6年（1917年）に山口県立教育博物館として県に移管され、その後、収蔵資料を守るための休館や戦後の改編を経て、昭和25年（1950年）に山口県立山口博物館が発足しました。昭和42年（1967年）には新館が開館し、人文・自然両部門をあわせ有する総合博物館として現在に至っています。

県立の博物館としては全国でも最も長い歴史を誇り、「文化の継承と発展のために努める」、「総合博物館として活動する」、「豊かな心を育み人づくりに資する施設として貢献する」、「多彩な博物館活動を行う」の4つを基本方針として、36万点を超える資料を収蔵し、その保管、展示及び調査研究を行っています。

また、県民の皆様を対象に多彩な講座や教室を開設する「教育普及活動」、長期研修教員であるミュージアム・ティーチャー（MT）と学芸員とが連携して学校や地域の学習活動を支援する「博物館学校地域連携教育支援事業」等を積極的に展開しており、これらの活動は当館の大きな特長であると自負しています。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、これまで蓄積してきたコロナ禍での運営体制により、人流の活発化する時期にあっても、特別展「ふしぎ！おどろき！大動物展～おおきなあれ 野生のどうぶつ物語～」を計画通り開催することができました。また、県内の児童生徒が取り組んだ自然観察や実験の研究成果、工夫を凝らして製作した用具など、優れた作品や研究成果を顕彰する「サイエンスやまぐち2022」や、「図鑑からとび出した!? カラフル鉱物大集合」と「レンズでのぞいた宇宙の不思議 やまはくの大天体望遠鏡」の2つの企画展も、順調に開催することができました。

一方、「教育普及活動」では、昆虫教室、植物教室、地学教室、科学工作講座、歴史教室、天体観望会など延べ25講座を開催するとともに、「博物館学校地域連携教育支援事業」では、出前授業、当館での社会見学や職場体験、館内授業などをオンラインも活用して実施し、延べ388団体、約1万7千人の方々にご利用いただいております。

さて、国においては、令和4年4月「博物館法の一部を改正する法律」が成立しました。約70年ぶりとなる博物館法の単独改正であり、令和5年4月1日から新たな制度に移行することとなります。この中では、博物館資料のデジタルアーカイブの作成と公開が博物館事業に位置付けられるなどしましたが、当館におきましても、歴史展示室での「デジタル松下村塾」や、ホームページ上での「バーチャル山口博物館」、「バーチャル収蔵庫」の開設など、計画的に対応を進めているところです。

これからも、県民の皆様のニーズを踏まえた展示内容の工夫、学校・地域と連携した教育普及活動の充実、こうした諸活動の基盤となる調査研究等に積極的に取り組んでまいりますので、皆様のご来館とご利用を心からお待ちしております。

令和5年9月

山口県立山口博物館

館長 西 村 和 彦

目 次

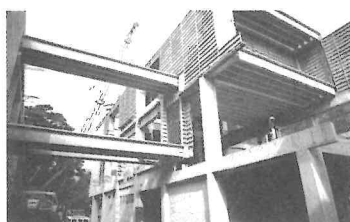
I	沿 革		1
II	管 理 運 営 概 要		4
1	組 織		4
2	敷地・建物の概要		5
III	令和4年度利用状況及び年次推移		8
IV	令和4年度事業概要		14
1	資料の収集・保管		14
2	資 料 展 示		18
3	調 査 ・ 研 究		34
4	教 育 普 及		38
5	そ の 他		44
V	基本方針と令和5年度の事業概要		46

I 沿 革

明治41年 4 月	皇太子殿下が行啓され、行啓日程の中で山口県教育品及び物産展覧会を御覧になられた。
明治41年10月	山口県教育会長が山口町長と大殿小学校旧校舎敷地建設使用契約を締結した。
明治45年 4 月	皇太子行啓記念事業として、山口県教育会が大殿小学校旧校舎を補修して防長教育博物館を設置した。（展示物総計5,451点）
大正 3 年 9 月	巡回教育博物館活動を開始した。（吉敷郡宮野村ほか）
大正 4 年10月	山口県立教育博物館建設費が県会で議決された。
大正 5 年 1 月	山口県教育会は代議員会で、大正 5 年度限りで防長教育博物館を廃止し、図書、標本、機械、器具を山口県立教育博物館へ寄付することを決定した。
大正 6 年 4 月	山口県は大正天皇即位大典記念事業として山口県立教育博物館を設置、同年 8 月19日で旧館を閉じ、9 月23日現在地に新館を開館した。
大正15年 5 月	皇太子殿下が行啓され、行啓日程の中で、御来館された。
昭和 2 年 1 月	大典記念山口県立教育博物館と改称された。
昭和 3 年12月	皇太子殿下の行啓を記念した防長先賢堂が落成した。
昭和 7 年 6 月	特別室が竣工した。
昭和12年 5 月	吉岡訓導銅像（制作者 保田龍門）、阿部校長銅像（制作者 河内山賢祐）の除幕式が行われた。 （昭和18年11月供出）
昭和16年 9 月	博物館前庭に赤道儀室（スライディンググループ式）を建築、10cm屈折赤道儀を新設し日食観察を実施した。
昭和17年12月	山口道場門前から、枕流亭（維新の史蹟建造物）を本構内に移築した。
昭和20年 4 月	太平洋戦争の苛烈化のため、4 月21日展示観覧を中止、資料を疎開し博物館は休止した。
昭和21年 4 月	山口県立教育博物館に山口県立科学教育研究所が設置された。
昭和22年 4 月	山口県立科学教育研究所が山口県立科学博物館と改称された。
昭和23年 3 月	第 1 回山口県科学振興展覧会を開催した。
昭和25年 7 月	自然・人文両部門をあわせ有する総合博物館として教育博物館と科学博物館を統合して山口県立山口博物館が発足した。
昭和27年 5 月	山口県立山口博物館設置条例（昭和27年山口県条例第35号）が公布された。
昭和39年 3 月	山口県博物館条例（昭和39年山口県条例第55号）が公布された。
昭和42年10月	建物の老朽化のため、鉄筋コンクリート建築に改築して10月 1 日開館し現在に至る。 （設計 坂倉準三）
	維新100年記念開館特別展「近代国家へのあゆみ」を開催した。（入館者 179,526人）



山口県立教育博物館（大正6年）



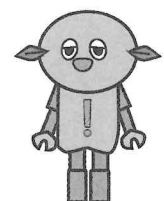
新館建設の様子



「近代国家へのあゆみ」開催

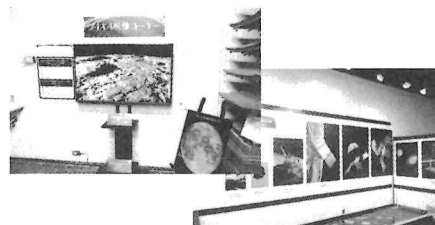
昭和43年 9 月	D60型 1 号蒸気機関車を山口博物館構内に展示（無償貸借）
昭和62年10月	理工展示室NTTコーナーを改装した。
昭和63年 3 月	理工展示室中国電力コーナーを改装した。東側屋外階段を改築（鉄骨化）した。
平成元年 3 月	屋外階段（建物正面）の撤去・新設工事を実施した。

平成2年3月	建物のイメージアップとパークロード周辺の建物との調和を図るため外壁（東側）をタイル張りに改修した。 理工展示資料を充実した（山口線運転シミュレータ、X線分析装置、真空凍結乾燥装置、アナモフォーシスほか）。 アスベスト除去工事（館長室、事務室、学芸員室、特別収蔵庫）、歴史展示室の常設ケース更新を実施した。
平成3年3月	前年度に引き続き理工展示資料を充実した（展示ロボット、教育用ロボット、多関節形ロボット、電気の原理模型ほか）。 生物展示ケースの常設ケースを更新した。
平成4年3月	博物館裏山（春日山）の公園整備にあわせ建物のイメージアップと周辺との調和を図るため、外壁（西側）をタイル張りにするとともに非常階段（西側）の改築も行った。 生物展示室、地学展示室の常設ケースを更新した。先賢堂の改修を実施した。
平成5年3月	20cm屈折赤道儀修理、地学展示室の常設ケース更新（常設ケース更新事業終了）
平成6年2月	受電設備の老朽、劣化にともなう電気設備の改修
平成7年4月	旧教育研修所第2研修部が所属替により山口博物館の管理となる。
〃 7月	高齢者及び身体障害者安全対策設備（階段手摺り設置、車椅子設置、車椅子用便所に改修、車椅子階段昇降機設置（展示室））
平成8年4月	別館（旧教育研修所第2研修部）の改修整備
平成10年1月	教育用ロボットの更新（対戦型バスケットボール）
平成11年8月	天体ドームのリニューアル工事
〃 9月	1階入口ドアの改修（自動ドア）
平成12年2月	特別収蔵庫の改修
平成13年3月	2階展示室に監視カメラを設置
〃 7月	玄関タイルの改修、車椅子用階段昇降機（内階段）の設置
〃 12月	P C B対策のため照明器具の取替、先賢堂屋根の補修
平成15年3月	ホームページ用サーバー等設置（博物館情報発信環境整備事業）
〃 10月	別館廊下床改修
平成16年3月	エレベーターの全面更新、3階展示室壁面クロス貼替工事
〃 4月	長期研修教員2名配置（博学連携事業開始）
平成17年6月	燻蒸室改修工事
平成18年3月	ロボットコーナー改修工事（FANUC改修、AIBO設置）、本館屋上全面改修工事、展示室フロアーコンセント改修工事
〃 4月	長期研修教員1名増員（計3名）
〃 4月	本館火災報知設備改修工事、別館屋上雨漏り補修工事
〃 6月	考古歴史常設展示ケース改修工事
平成19年6月	特別展示室（旧講堂）空調設備改修工事
〃 12月	「未来都市模型」改修
平成21年3月	山口線シミュレータ改修
平成22年3月	ターボ冷凍機圧縮機全分解整備
〃 9月	高効率蛍光灯設置工事（環境政策課）
平成23年1月	3階理工展示室体験型展示資料更新（5点）
〃 3月	別館屋上太陽光パネル設置工事（環境政策課）
平成24年2月	開館100周年記念マスコットキャラクター（なっとくん）選定



「なっとくん」

平成24年 3 月	大規模施設改修と展示資料の更新（住民生活に光をそそぐ交付金） ○施設改修：1 階収蔵庫・2 階生物資料庫改修工事、別館屋上防水工事、ガスパ交換工事、本館トイレ工事、段差解消機設置工事ほか ○展示資料の更新：2 階理工ロボットコーナー更新、くらしのなかのサイエンスコーナー新設、地学展示室ティラノサウルス骨格複製レプリカ購入、植物・動物展示室全面更新、天文太陽系運行模型等更新、3 階体験学習コーナー11点新設ほか 開館100周年記念式典を挙（3月27日）
平成24年 7 月	「山口博物館100年のあゆみ」刊行
平成25年 4 月	長期研修教員 1 名増員（計 4 名）
平成26年 3 月	本館屋上排水口拡張工事、本館外壁爆裂箇所修繕工事、本館屋上タイル修繕工事
〃 7 月	アスベスト対策工事のため休館
〃 9 月	給水管布設替え工事
平成27年 3 月	消防設備改修工事、本館屋上階段補修工事
〃 6 月	山口大学埋蔵文化財資料館と連携協力協定を締結
平成28年 1 月	ターボ冷凍機抽気装置改修
〃 5 月	アスベスト対策工事終了
〃 7 月	再オープン
〃 7 月	「松下村塾コーナー」を新設
平成29年 4 月	長期研修教員 1 名減員（計 3 名）
〃 11 月	「JAXAコーナー」を新設
平成30年 4 月	明治150年を記念し、吉田松陰関係資料等を特集展示
〃 12 月	「ミニ維新体験館」を新設
平成31年 3 月	ターボ冷凍機分解整備
令和 2 年 3 月	別館屋上外壁改修工事（令和 2 年 5 月終了）
〃 3 月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（3月3日から3月26日まで）
〃 4 月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（4月14日から5月24日まで）
〃 5 月	「バーチャル博物館（ミュージアム）inやまはく」開設（HP上）
〃 7 月	「すごいおもちゃコーナー」新設（理工展示室）
令和 3 年 2 月	本館・別館トイレ洗面蛇口自動水栓改修
〃 2 月	「ミュージックミュージアムinバーチャルやまはく」開設（文化庁事業：HP上）
〃 8 月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（8月26日から9月26日まで）
〃 9 月	本館・別館トイレ自動照明改修
令和 4 年 3 月	「デジタル松下村塾」開設（（歴史展示室等、3月18日）
〃 3 月	「バーチャル収蔵庫」開設（当館HP上、3月18日）
〃 3 月	「バーチャル山口博物館」開設（HP上のバーチャル展示を統合、3月18日）



JAXAコーナー



ミニ維新体験館



すごいおもちゃコーナー



ミュージックミュージアムinバーチャルやまはく



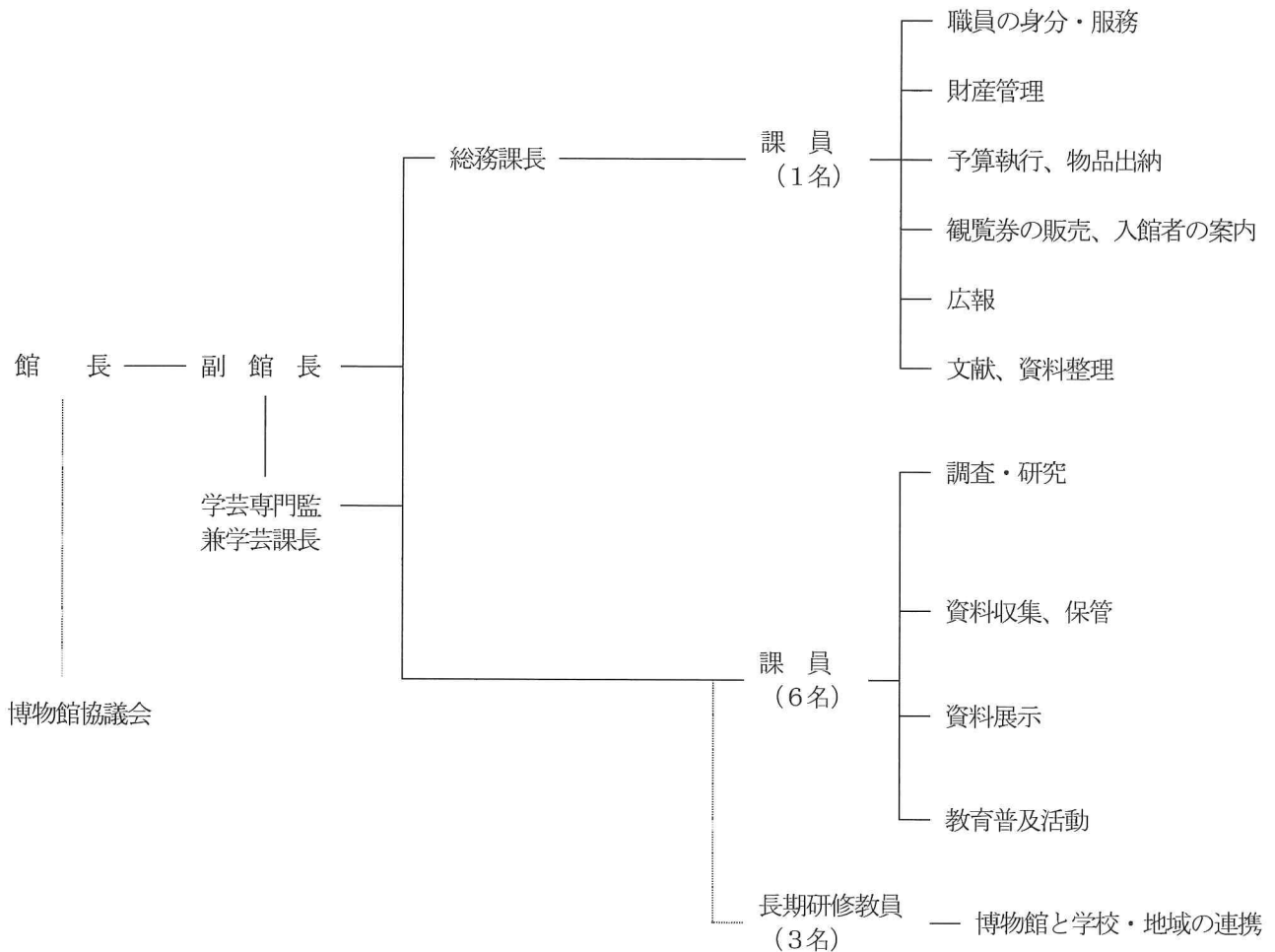
デジタル松下村塾



バーチャル収蔵庫

Ⅱ 管理運営概要

1 組 織



◎ 職員名簿（令和4年4月1日現在）

職 名	氏 名	事 務 分 掌
館 長	西 村 和 彦	館運営総括
副 館 長	棚 良 督	館運営総括補佐
学芸専門監兼学芸課長(学芸員)	杉 江 喜 寿	学芸業務の総括、植物
総 務 課 長	林 宏 昭	総務業務の総括、公印、人事、予算、歳入、広報
主 任	室 田 紀 泰	歳出、業務委託、給与、旅費
主 査(学 芸 員)	岩 村 和 政	天文
主 査(学 芸 員)	漁 剛 志	理工
主 任(学 芸 員)	赤 崎 英 里	地学
主 任(学 芸 員)	阿 部 来	考古
主 任(学 芸 員)	田 中 浩	動物
主 任(学 芸 員)	山 田 稔	歴史
教 頭(長 研 教 員)	河 村 淳一郎	博学地域連携
教 頭(長 研 教 員)	惣 田 亘 代	博学地域連携
教 頭(長 研 教 員)	河 村 祐 介	博学地域連携

2 敷地・建物の概要

庁舎敷地・管理分掌敷地 19,905.04 m²

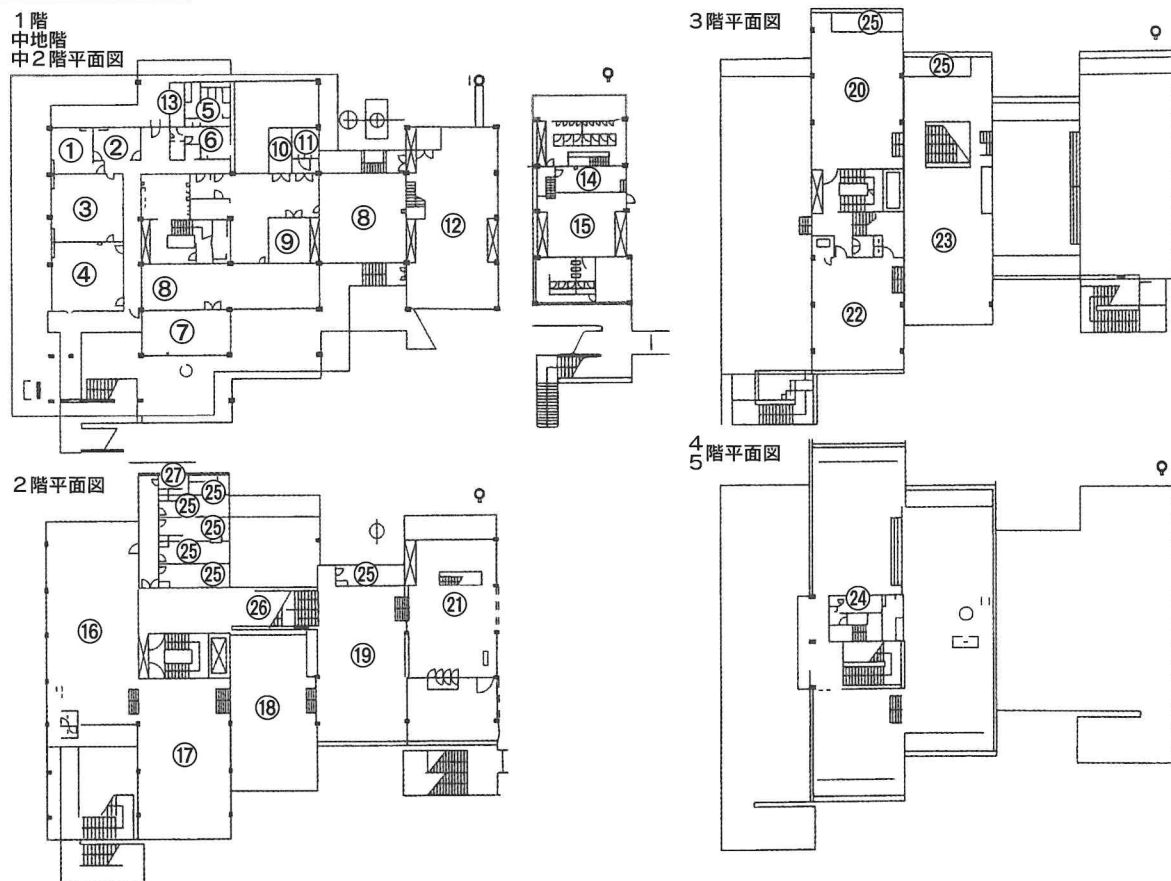
(1) 本 館

建 築 面 積 1,771.20 m²
 建 築 延 面 積 3,597.21 m²
 軒 高 19.050 m
 最 高 部 高 さ 22.250 m

構 造 概 要

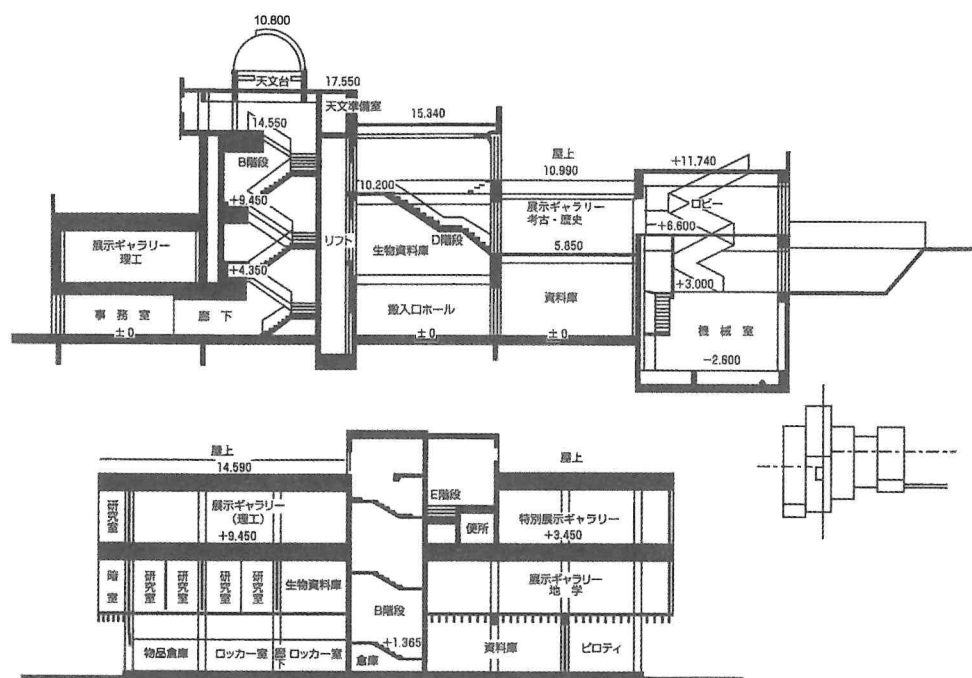
鉄筋コンクリート造り 地上5階
 地下1階（一部）
 竣 工 昭和42年3月
 開 館 昭和42年10月
 総工事費 約2億6,100万円

建物平面図



1. 館長室	25.92m ²	11. 燻蒸室	17.01m ²	21. 天文展示室	180.72m ²
2. 準備室	22.50m ²	12. 機械室	222.62m ²	22. 特別展示室	142.56m ²
3. 学芸員室	69.26m ²	13. ロッカー室	7.56m ²	23. 理工展示室	294.40m ²
4. 事務室	69.26m ²	14. 技師室	27.72m ²	24. 観測室	79.92m ²
5. 会議室	29.16m ²	15. 電気室	66.42m ²	25. 研究室	152.10m ²
6. 物品庫	17.60m ²	16. 理工展示室	259.20m ²	26. 生物資料庫	116.64m ²
7. 特別資料室	58.32m ²	17. 地学 "	200.88m ²	27. 薬品庫	8.64m ²
8. 資料庫	233.28m ²	18. 植物・動物 "	194.40m ²	その他	677.49m ²
9. 地学工作室	32.40m ²	19. 考古・歴史 "	200.88m ²		
10. 梱包材料庫	15.39m ²	20. 理工 "	174.96m ²	合 計	3,597.21m ²

建物断面図



山口博物館正面



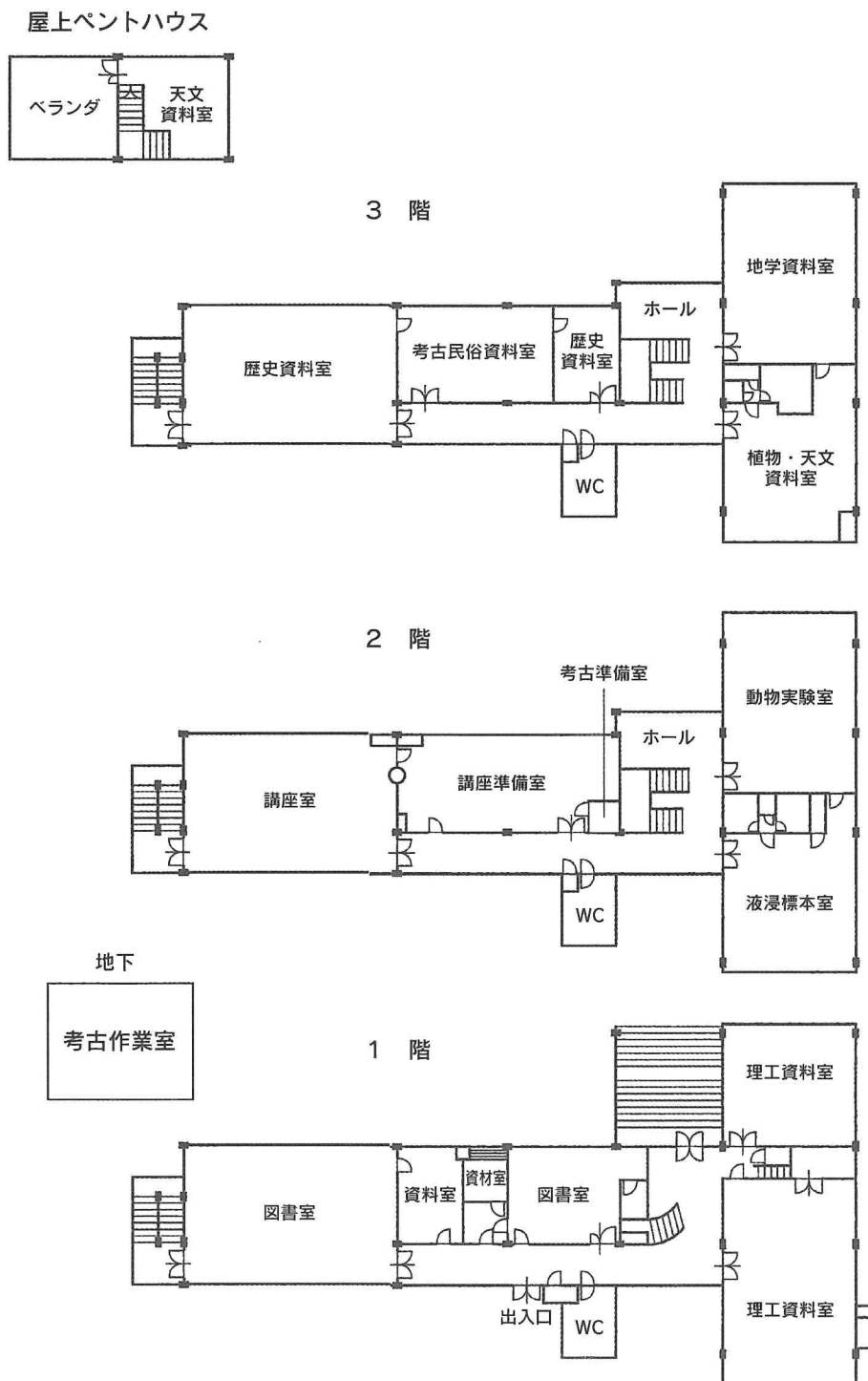
山口博物館全景（平成23年10月）

(2) 別館（旧山口県教育研修所第二研修部庁舎、昭和36年7月20日竣工）

建築面積 480.23㎡

建築延面積 1,566.3㎡

建物平面図



(3) 赤レンガ（旧維新記念室、大正6年竣工）

建築面積 157.02㎡

建築延面積 157.02㎡

(4) 防長先賢堂（昭和3年竣工）

建築面積 178.51㎡

建築延面積 178.51㎡

Ⅲ 令和4年度利用状況及び年次推移

(1) 総利用者数

【令和4年度】

入館者			計	教育普及	館内利用	館外利用	レファレンス	合計
常設展	特別展	サイエンス						
人	人	人	人	人	人	人	人	人
18,188	11,796	2,187	32,171	578	(125) 4,559	12,492	474	(45,840) 50,274

※ () は社会見学利用を除いた数

【年次推移（平成29年度以降）】

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
入館者数（人）	54,628	41,567	38,106	23,500	18,024	32,171
常設展（人）	14,880	16,212	17,166	7,705	12,991	18,188
特別展（人）	37,910	23,420	18,412	13,968	2,309	11,796
サイエンス（人）	1,838	1,935	2,528	1,827	2,724	2,187
教育普及活動（人）	1,478	2,091	1,647	422	444	578
レファレンス（人）	569	516	450	436	403	474
出前授業等（人）	30,468	21,106	23,302	10,953	15,341	17,051
計（人）	87,143	65,280	63,505	35,311	34,212	50,274

※ 令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため特別展開催期間中の8月26日～9月26日まで臨時休館した。

(2) 入館者の状況

【令和4年度】（個人・団体別）

区分	入館者								入館者合計	開館日数	一日平均入館者数
	個人				団体						
	大人	大学生 高校生	小中学生	その他	大人	大学生 高校生	小中学生	その他			
常設展	7,130	388 88	2,772	3,740	0	0 2	3,571	497	18,188	300	61
特別展	3,947	272 115	3,234	4,228	0	0 0	0	0	11,796	36	328
サイエンス	679	20 11	445	550	0	0 0	457	25	2,187	15	146

★特別展

「ふしぎ・おどろき・大動物展 ～おおきくなあれ 野生のどうぶつ物語～」の概要

1 期 間

令和4年7月15日（金）～8月28日（日）36日間（月・火休館）

2 入館者数

11,796人 ※昨年2,309人（510.9%増）、一昨年13,968人（15.5%減）

3 入館料収入

4,039千円 ※昨年1,073千円（376.4%増）、一昨年6,099千円（33.8%減）

4 有料入館者率

35.7% ※昨年49.5%、一昨年44.4%

5 アンケート結果

「良かった」「とても良かった」が93%（昨年95%、一昨年90%）

6 状況

多くの子どもの来館が期待されたが、新型コロナウイルス第7波の急拡大により感染者の増加等の影響を受け、入館者の増加にはつながらなかった。

最新のVR機器によるアナグマの生態に関する3D映像体験は、感染対策を十分に行い実施した。VR機器使用制限のある12歳以下の児童・幼児に対しては、タブレット端末で対応した。

一方、観覧された方からは、「生き物のくらしや生態が写真で説明され、映像などで詳しく知ることができ大変おもしろかった」、「子どもたちが興味津々で見っていました」、「世界だけでなく、山口県内のことも詳細に取り上げられていてよかった」など、概ね好評をいただいた。

新たな取組として、県内の動物飼育4施設と連携した入館料の割引制度を実施した。

★サイエンスやまぐち2022

① 第76回山口県科学作品展の概要

1 期 間

令和4年10月28日（金）～11月13日（日）（15日間開催）

2 内 容

県内の各学校に出品された作品は、約33,400点（自然の部 約26,700点、創造の部 約6,700点）であり、県内各学校及び各地区での審査を経て、県科学作品展に206点（自然の部160点、創造の部46点）が出品された。入賞者の内訳は以下のとおり。

	出品点数	優秀賞	奨励賞	入選	佳作	入賞点数計
自然の部(小学校1・2年)	31	1	1	3	6	11
自然の部(小学校3・4年)	32	1	1	3	6	11
自然の部(小学校5・6年)	36	1	1	4	8	14
自然の部(中学・高等学校)	61	1	1	7	14	23
自然の部【総数】	160	4	4	17	34	59
創造の部【総数】	46	2	3	4	9	18

② 第76回山口県科学研究発表会の概要

1 開催日（審査日）

令和4年10月13日（木）

2 内 容

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小学校の部は DVD、中・高等学校の部はオンラインによる発表の審査を実施。

発表数は 21 件（小学校の部 12 件、中・高の部 9 件）で、入賞者の内訳は以下のとおり。

校種部別	発表数	優秀賞	奨励賞	入選
小学校の部	12	1	2	2
中・高の部	9	1	1	2

【特別展及びサイエンスやまぐち入館者数 年次推移（平成 20 年度以降）】

年度	特別展	入館者数（期間）	サイエンスやまぐち	入館者数（期間）
H20	ロボット展	30,121 人(20 日間)	サイエンスやまぐち '08	2,151 人(15 日間)
H21	タネたねワールド探検隊	11,073 人(27 日間)	サイエンスやまぐち '09	2,035 人(15 日間)
H22	やまぐち動物大百科展	20,210 人(34 日間)	サイエンスやまぐち '10	3,127 人(15 日間)
H23	恐竜～ダイナソーの世界～	45,624 人(28 日間)	サイエンスやまぐち '11	2,708 人(15 日間)
H24	大鉄道展	64,540 人(41 日間)	サイエンスやまぐち '12	2,327 人(15 日間)
H25	発見！産業アドベンチャー	12,186 人(40 日間)	サイエンスやまぐち '13	2,334 人(15 日間)
H26	テーマ展として実施		サイエンスやまぐち '14	1,703 人(14 日間)
H27	改修のため、特別展等は他館で開催		サイエンスやまぐち '15	1,150 人(15 日間)
H28	昆虫のふしぎな世界	27,804 人(40 日間)	サイエンスやまぐち '16	1,698 人(15 日間)
H29	アリスと大冒険 3Dふしぎ博物館	37,910 人(40 日間)	サイエンスやまぐち '17	1,838 人(15 日間)
H30	宇宙兄弟展 2018×やまぐちと宇宙	23,420 人(41 日間)	サイエンスやまぐち '18	1,935 人(15 日間)
R1	どきどき！ドローン・ワールド	18,412 人(28 日間)	サイエンスやまぐち '19	2,528 人(15 日間)
R2	生物の進化と恐竜ワールド	13,968 人(36 日間)	サイエンスやまぐち '20	1,827 人(15 日間)
R3	江戸時代の旅と街道	2,309 人(16 日間)	サイエンスやまぐち '21	2,724 人(15 日間)
R4	ふしぎ・おどろき・大動物展	11,796 人(36 日間)	サイエンスやまぐち '22	2,187 人(15 日間)
平均（H26,H27,R3 の特別展を除く）		26,422 人		2,151 人

※平成 26～27 年度の特別展は、博物館改修のため他館で開催

【特別展】

H26	（テーマ展）きらり山口！人物伝	594 人	（7 日間、県政資料館）
H27	NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」	14,107 人	（34 日間、萩美術館・浦上記念館）
〃	（特別展）世界大恐竜展	80,245 人	（47 日間、県立美術館）
H30	明治 150 年記念特別展「激動の幕末長州藩主毛利敬親」	19,619 人	（42 日間、県立美術館）

【サイエンスやまぐち】

H26	サイエンスやまぐち 2014	県政資料館
H27	サイエンスやまぐち 2015	県社会福祉会館

(3) 教育普及講座の実施状況

【令和4年度】

全参加者数（人）	578 人
----------	-------

- ・予定していた26回の講座のうち、実施したのは25回（1回は悪天候のため中止）
- ・詳細については、「令和4年度事業概要 4 教育普及」に記載

【年次推移（平成29年度以降）】

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	平均
参加者数（人）	1,478	2,091	1,647	422	444	578	1,110

(4) 博物館学校地域連携教育支援事業の実施状況

【令和4年度】

博物館学校地域連携教育支援事業 利用者数集計表（対象別内訳）

【年間計】

館内利用			幼保	小	中	高・大	教員※	保護者	地域	引率※	計
A 社会見学	学校	人	51	3,673	270	44	39	43	0	293	4,413
		団体	2	86	12	1	3	0	0	－	104
	地域	人	0	13	3	0	0	2	0	3	21
		団体	－	－	－	－	－	－	1	－	1
B 館内授業	学校	人	0	75	14	0	0	0	0	25	114
		団体	0	3	2	0	0	0	0	－	5
	地域	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		団体	－	－	－	－	－	－	0	－	0
C 職場体験	学校	人	0	0	11	0	0	0	0	0	11
	地域	人	－	－	－	－	－	－	0	－	0

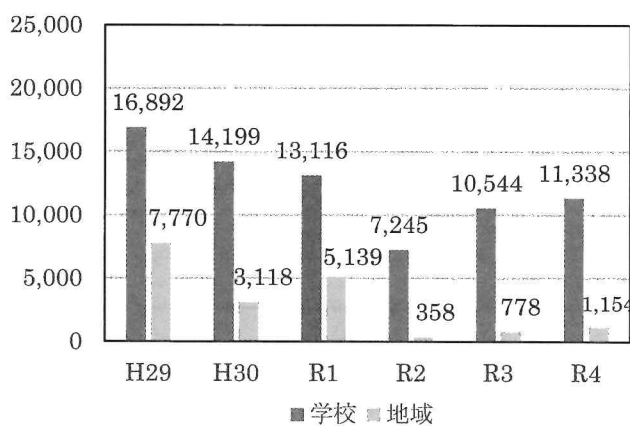
館外利用			幼保	小	中	高・大	教員	保護者	地域	引率※	計
A 出前授業	学校	人	25	3,251	415	54	14	258	16	418	4,451
		団体	2	170	23	4	0	0	0	－	199
	地域	人	25	693	1	4	1	193	21	85	1,023
		団体	－	－	－	－	－	－	34	－	34
B 教材貸出	学校	人	0	1,997	4,472	70	0	120	10	218	6,887
		団体	0	19	18	2	0	0	0	－	39
	地域	人	0	106	11	0	0	3	0	11	131
		団体	－	－	－	－	－	－	3	－	3
C 移動展示	学校	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地域	人	－	－	－	－	－	－	0	－	0

※令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「移動展示」は中止

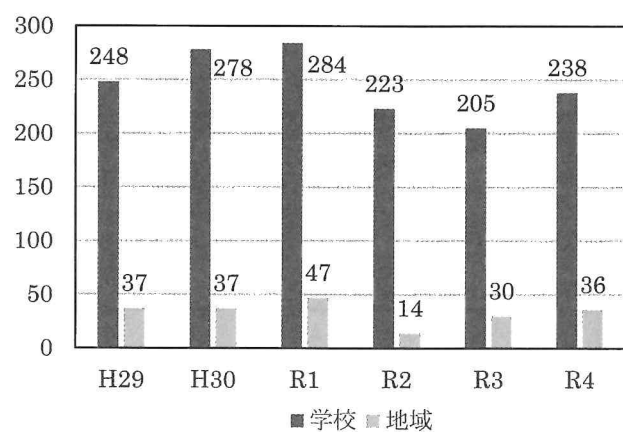
【年次推移（平成 29 年度以降）】

年 度			H29	H30	R1	R2	R3	R4
利用者総数			30,468	21,106	23,302	10,953	15,341	17,051
利用団体総数			446	456	530	329	319	388
学校	館内利用	利用者数	4,991	3,602	3,814	3,153	3,973	4,538
		利用団体数	140	137	151	74	81	112
	館外利用	利用者数	16,892	14,199	13,116	7,245	10,544	11,338
		利用団体数	248	278	284	223	205	238
地域	館内利用	利用者数	815	187	1,233	197	46	21
		利用団体数	21	4	48	18	3	1
	館外利用	利用者数	7,770	3,118	5,139	358	778	1,154
		利用団体数	37	37	47	14	30	37

館外利用（出前授業等）の
実績（人数）



館外利用（出前授業等）の
実績（団体数）



教員のための博物館の日（ドローンプログラミング体験）



出前授業（昆虫教室）

(5) 資料・写真の貸出等（展覧会・講座等）

【令和4年度】

件数（件）	140
-------	-----

【年次推移（平成29年度以降）】

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	平均
件数（件）	218	245	156	130	138	140	171

(6) レファレンスその他の実施状況

【令和4年度】

件数（件）	474
-------	-----

（分野別）

	天文	地学	植物	動物	考古	歴史	理工	合計
件数（件）	49	16	51	168	65	89	36	474

【年次推移（平成29年度以降）】

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	平均
件数（件）	569	516	450	436	403	474	475

(7) ホームページアクセス件数（アクセス件数の記録は平成29年度以降）

【令和4年度】

件数（件）	166,228
-------	---------

【年次推移（平成29年度以降）】

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	平均
件数（件）	124,571	115,225	107,547	134,568	142,570	166,228	131,785

(8) やまはくスタンプラリー2022

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止（2019年度のみ実施）

Ⅳ 令和4年度事業概要

1 資料の収集・保管

(1) 収蔵資料数(令和5年3月31日現在)

部門	天文	地学	植物	動物	理工	考古	歴史	その他	合計
資料数	282	4,934	215,119	133,490	1,072	4,817	4,733	4,841	369,288
前年度 増 減	1	5	455	3,305	0	0	1	0	3,767

(2) 新着資料(令和4年度)

部門	資 料 名	数量	寄贈者・購入先
植物	腊葉標本	384 点	寄贈 (南 敦氏)
	※登録及び保管処理済のみ	42 点	寄贈 (三宅貞敏氏)
		10 点	寄贈 (上田洋史氏)
		15 点	寄贈 (永井要明氏)
		4 点	寄贈 (松本秀樹氏)
天文	西村製作所 15 cm反射経緯台	1 台	寄贈 (坪井正紀氏)
地学	礫岩 (山陽小野田市産)	1 点	寄贈 (県農林総合技術センター)
	砂岩 (美祢市産)	1 点	〃
	千枚岩 (山口市大内産)	1 点	〃
	蛇紋岩 (岩国市美川町産)	1 点	〃
	芦屋層群産のヒゲクジラ類化石 (頭蓋)	1 点	寄贈 (牧野彰人氏)
動物	メガネカイマン (幼体) 剥製	1 点	寄贈 (戸坂弘美氏)
	アオウミガメ剥製他	2 点	寄贈 (和泉宏昭氏)
	メガネカイマン (成体) 剥製	1 点	寄贈 (野村 勲氏)
	キジ剥製	1 点	寄贈 (岩本樹也氏)
	アオウミガメ剥製他	2 点	寄贈 (白石民子氏)
	アオウミガメ剥製	1 点	寄贈 (國弘智子氏)
	沖縄の貝類・サンゴ類	1 式	寄贈 (山本裕子氏)
	コウライキジ剥製他	2 点	寄贈 (吉武幹男氏)
歴史	生蠟・小鉢	1 組	寄贈 (林芙美夫氏)



特別収蔵庫 ①



特別収蔵庫 ②



動植物収蔵庫（生物資料庫）①



動植物収蔵庫（生物資料庫：植物）②

（３）収蔵資料数の年次推移（平成 25 年（2013 年）度より）

	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)	平成 30 年 (2018)	令和 元年 (2019)	令和 2 年 (2020)	令和 3 年 (2021)	令和 4 年 (2022)
天文	— (281)	— (281)	— (281)	— (281)	— (281)	— (281)	— (281)	— (281)	— (281)	1 (282)
地学	9 (4,862)	3 (4,865)	- (4,865)	5 (4,870)	43 (4,913)	2 (4,915)	1 (4,916)	— (4,916)	13 (4,929)	5 (4,934)
植物	3,417 (209,407)	2,657 (212,147)	1,150 (213,297)	378 (213,675)	116 (213,791)	269 (214,060)	97 (214,157)	168 (214,325)	339 (214,664)	455 (215,119)
動物	213 (111,398)	2,380 (113,778)	3,652 (117,430)	6,594 (124,024)	2,658 (126,682)	1,538 (128,220)	758 (128,978)	586 (129,564)	621 (130,185)	3305 (133,490)
理工	21 (1,065)	1 (1,066)	4 (1,070)	1 (1,071)	— (1,071)	— (1,071)	1 (1,072)	— (1,072)	— (1,072)	— (1,072)
小計	3,660 (327,096)	5,041 (332,137)	4,806 (336,943)	6,978 (343,921)	2,817 (346,738)	1,809 (348,547)	857 (349,404)	754 (350,158)	973 (351,131)	3766 (354,897)
考古	— (4,817)	— (4,817)	— (4,817)	— (4,817)	— (4,817)	— (4,817)	— (4,817)	— (4,817)	— (4,817)	— (4,817)
歴史	859 (4,548)	81 (4,629)	27 (4,656)	— (4,656)	1 (4,657)	65 (4,722)	— (4,722)	— (4,722)	10 (4,732)	1 (4,733)
美術 工芸	— (1,699)	— (1,699)	— (1,699)	— (1,699)	— (1,699)	— (1,699)	— (1,699)	— (1,699)	— (1,699)	— (1,699)

民俗	— (3,142)	— (3,142)	— (3,142)	— (3,142)	— (3,142)	— (3,142)	— (3,142)	— (3,142)	— (3,142)	— (3,142)
小計	859 (14,206)	81 (14,314)	27 (14,314)	— (14,314)	1 (14,315)	65 (14,380)	— (14,380)	— (14,380)	10 (14,390)	1 (14,391)
合計	4,519 (341,302)	5,122 (346,424)	4,833 (351,257)	6,978 (358,235)	2,818 (361,053)	1,874 (362,927)	857 (363,784)	754 (364,538)	983 (365,521)	3,767 (369,288)

(4) 館蔵指定文化財一覧（寄託品を含む）

No.	指定区分	種別	資料名	点数	指定年月日	所蔵者
1	国	絵画	絹本著色毛利元就像	1 幅	昭和 44 年 6 月 20 日	豊栄神社
2	国	絵画	絹本著色仁王経曼荼羅図	1 幅	昭和 53 年 6 月 15 日	神上寺
3	国	工芸品	太刀 銘口友 伝助友	1 口	大正元年 9 月 3 日	野田神社
4	国	歴史資料	防長土図 附長持並櫃	109 個	平成 5 年 1 月 20 日	山口県
5	国	歴史資料	正徳元年朝鮮通信使進物並進物目録 附長持	106 点	平成 5 年 6 月 10 日	山口県
6	国	有形民俗文化財	江崎のまるきぶね	1 隻	昭和 32 年 6 月 3 日 昭和 50 年 10 月 1 日	山口県
7	県	彫刻	能面	10 面	昭和 41 年 6 月 10 日	正八幡宮
8	県	絵画	絹本着色大庵須益和尚像	1 幅	昭和 45 年 4 月 1 日	瑠璃光寺
9	県	絵画	絹本着色全岩東純和尚像	1 幅	昭和 45 年 4 月 1 日	瑠璃光寺
10	県	絵画	絹本着色桃岳瑞見和尚像	1 幅	昭和 45 年 4 月 1 日	瑠璃光寺
11	県	絵画	絹本着色釈迦十六善神像 付納箱	1 幅	昭和 60 年 10 月 29 日	極楽寺
12	県	絵画	紙本着色尼子経久像	1 幅	昭和 49 年 11 月 8 日	山口県
13	県	絵画	絹本着色尼子晴久像	1 幅	昭和 49 年 11 月 8 日	山口県
14	県	工芸品	鰐口	1 口	昭和 55 年 4 月 11 日	名田勝子

15	県	考古資料	茶臼山古墳出土品 画文帯神獸鏡	1 面	平成 7 年 1 月 13 日	山口県
16	県	書跡	手鑑「多々良の麻佐古」	1 帖	令和元年 12 月 6 日	山口県
17	県	考古資料	御山神社経塚出土品	20 点	昭和 49 年 11 月 8 日	御山神社
18	県	歴史資料	紙本着色毛利敬親山口新御屋形入居奉祝図	1 面	平成 29 年 5 月 9 日	野田神社
19	県	考古資料	赤妻古墳出土の舟形石棺	1 基	平成 5 年 5 月 14 日	山口県
20	山口市	彫刻	木造獅子頭 付納箱	1 頭	平成 8 年 2 月 15 日	朝倉八幡宮
21	岩国市	古文書	出師の檄及び長州征伐の記録	1 枚	昭和 50 年 10 月 8 日	讃井知明

(5) 資料の貸出・資料の特別利用の状況(令和4年度)

・資料の貸出

No.	資料名	点数	貸 出 先	期間(会期)
1	毛利嶋山官軍大勝利之図 他	2	下関市立歴史博物館	令和4年9月16日 ～11月13日
2	有柄細形銅剣(レプリカ)	1	荒神谷博物館	令和4年7月16日 ～8月29日
3	美濃ヶ浜遺跡出土石製模造品 他	18	山口大学埋蔵文化財資料館	令和4年8月6日 ～10月14日
4	四境戦争図 大島ぐんの図絵 他	2	伊藤公資料館	令和4年9月2日 ～10月2日
5	正徳元年朝鮮通信使進物並進物目録	54	対馬博物館	令和4年10月15日 ～12月4日
6	オオヒョウタンダンゴムシ乾燥標本 他	11	防府市青少年科学館	令和4年10月29日 ～令和5年1月15日

※令和3年度貸出実績は8件

・資料の特別利用(資料画像データの出版等への利用)

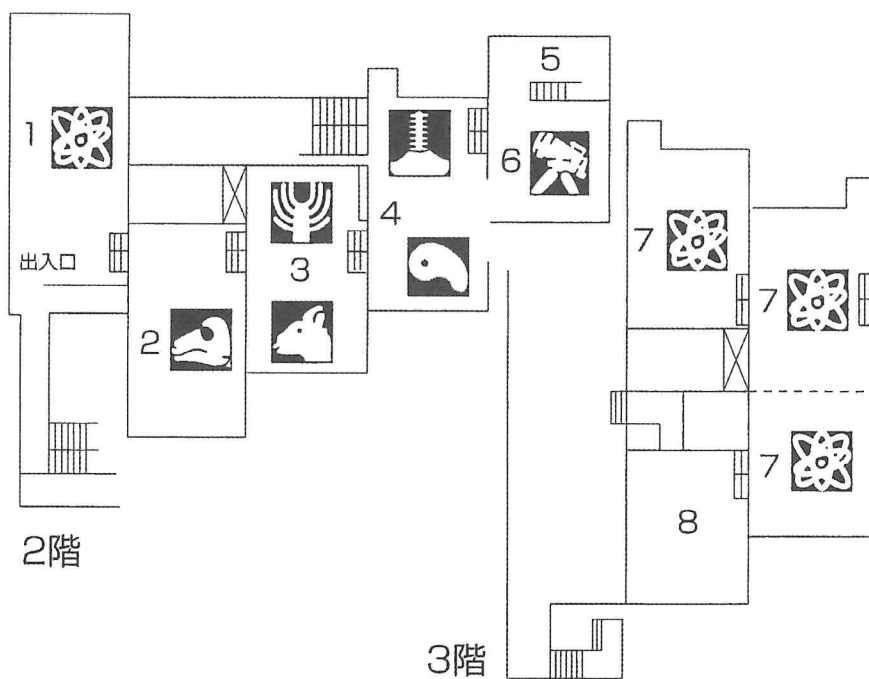
部門	天文	地学	植物	動物	理工	考古	歴史	その他	合計
件数	1	8	2	3	0	5	112	3	134
前年度増減	△1	3	0	2	△1	△4	2	1	2

※令和3年度特別利用実績は132件

2 資料展示

(1) 展示室案内

1. 2階理工展示室
2. 地学展示室
3. 植物・動物展示室
4. 考古・歴史展示室
5. ロビー
(学習コーナー)
6. 天文展示室
7. 3階理工展示室
8. 特別展示室



展示室風景

(2) 常設展示

・令和4年度に変更・追加した資料

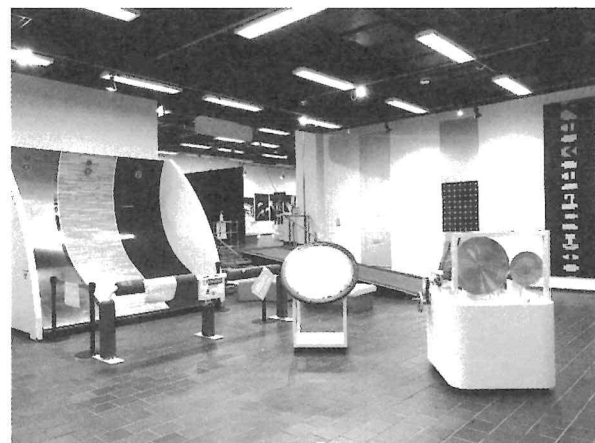
分野 (展示場所)	資料名	概要	時期
理工	「すごいおもちゃコーナー」第3期 (2階)	県内企業の卓越したものづくり技術で製作した子どもたちが大好きな玩具等を展示。 すべらないすべり台(株伊藤(光市))、折り紙万華鏡(株ナベル(阿武町))、ステンレス製ピサの斜塔(株まるわステンレス工業(下関市))、からくりおもちゃ(株ミヤハラ(周南市))の玩具4点及び各社の技術力を紹介する展示約50点	10月
地学	白亜紀の火成岩及び変成岩標本	白亜紀の火成活動に関連する岩石標本を追加	4月
植物	なっとくんの「緑のたより」「季節のたより」	身近な植物を画像やクイズなどで紹介	通年
	植物関連図書	植物関連図書(植物画)、図譜などを展示	通年
	植物ニュース	山口県の植物の記事などを紹介	通年
動物	昆虫標本9箱	昆虫解説標本を新展示	7月
	サボちゃん通信	動物サポーターの活動報告	年2回
考古	杏葉	山口市大内御堀馬塚古墳出土	3月
歴史	明治維新関係資料展示 ① 毛利敬親関係資料 ② 周布政之助・木戸孝允関係資料 ③ 吉田松陰関係資料 防長の絵図	特集展示「明治維新と長州藩」として、関係資料を随時展示替え。 萩城下町絵図、行程記、芸州吉田郡山絵図ほか	通年
天文	天文ニュース	年4回、天文に関わるニュースの更新	通年
	JAXAコーナー	リュウグウサンプルのレプリカ展示	6月

■ 2 階理工展示室



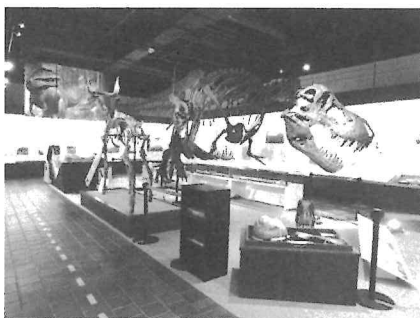
主題	内容	展示資料
ロボットコーナー	車の組み立てや薬剤の仕分けなど行う産業用のロボットの動きを、5つの楽しいパフォーマンスで紹介する。また、かわいらしい動きをするコミュニケーションロボットのプログラミングを通して、ロボット制御を体験する。	垂直多関節形ロボット、スタンプロボット、コミュニケーションロボット6点
ミニ維新体験館	明治150年プロジェクト「やまぐち未来維新」の中核イベントとして開催した「山口ゆめ花博」会場で好評だった「維新体験館」のVR（バーチャルリアリティ）映像などの主なコンテンツを「ミニ維新体験館」として設置。	幕末維新回廊プロモーションビデオ、松陰先生からのメッセージ、疾風怒濤の歴史ドラマ、VRで参加する幕末・維新の名場面3点。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、操作体験は不可とした。
すごいおもちゃコーナー	県内企業の卓越したものづくり技術で制作した子どもたちが大好きな玩具等を展示。	すばらないすべり台、折り紙万華鏡、ステンレス製ピサの斜塔、からくりおもちゃなどの玩具等約50点
くらしのなかのサイエンス	私たちの生活を支えている科学の中から、「発熱」「発光」「発電」の3つのエッセンスを取り上げ、収蔵資料と現在の製品の展示を通して科学技術の進化を紹介する。	小型ロボット「ムッシュ君」、炊飯器カットモデル、有機ELテレビ等実物資料、レプリカなど約10点
山口県の産業技術史	山口県の地質や地理的要因を踏まえながら山口県で発展した産業を紹介する。また、日本の近代産業化に貢献した県出身者の業績もあわせて紹介する。	「明治日本の産業革命遺産」紹介映像、D51137機関車模型、凌雲閣エレベータ模型、耐熱フィルム、耐熱繊維コーネックスなど15点
未来都市模型	太陽光発電や風力発電など環境にやさしい石油代替エネルギーの紹介や未来の乗り物の操作体験。	リニアモーターカー、太陽光導入システム、太陽光発電大賀模型、石油代替エネルギー解説装置

■ 3階理工展示室



主題	内容	展示資料
体験学習コーナー	子どもから大人まで楽しめるシンプルで独創的なアナログ体験資料で体や頭を使って、楽しみながら自然界や法則や原理を体験。	スイングバイテーブル、どれくらいテーブル、ゾートロープなど新型コロナウイルス拡大防止対策が講じられた体験展示資料。
JAXA コーナー	JAXA 提供の人工衛星や宇宙利用・宇宙開発関係の写真やイラストを展示。また人工衛星などの館蔵資料もあわせて展示。	写真及びイラストパネル 13 枚、人工衛星模型。
山口線運転シミュレータ	実物機器を備えたディーゼルカーの運転席でハンドルやブレーキを操作することができ、操作にともない、山口線ワイドパノラマ映像のスピードや音が変化することで、本物と同様の列車運転が体験できる。	キハ 58 型ディーゼルカー運転席、130 インチワイドスクリーン、路線機器、路線データモニターテレビ、制御機器、機器説明パネルなど

■ 地学展示室



主題	内容	展示資料
山口県の大地の生い立ち	古生代の山口県の様子を紹介。 中生代の山口県の様子を紹介。 新生代の山口県の様子を紹介。	県内最古の岩石 2 点、海底火山の岩石 1 点、ウミユリなど化石を含む石灰岩 25 点 美祢層群産化石資料など 16 点、火成岩資料 9 点、変成岩 8 点 スサガメなど化石資料 23 点、ホルンフェルスなど岩石資料 5 点
地球の歴史	地球の誕生 生命の誕生 真核生物の誕生 酸素の発生 多細胞生物の誕生 魚類の時代 両生類の時代 森林の時代 ほ虫類の時代 鳥類の時代 ほ乳類の時代	隕石 1 点、最古の岩石 2 点 ピルバラのチャート 1 点 グリパニア 1 点 縞状鉄鉱石 1 点 エディアカラ生物群（複製） 5 点 バージェス動物群（複製） 2 点 クラウディナ、クックソニア各 1 点 シーラカンス、ボトリオレピス、アカントーデス各 1 点 ディスコサウリスキス 1 点 ロボク、リンボク、フウインボク各 1 点 ディメトロドン（複製）、ブラジロサウルス、プレシオサウルス（複製）、コンプソグナトゥス（複製）、ティラノサウルス（複製） 1 点 始祖鳥（複製） 1 点 ヤベオオツノジカ（複製） 1 点、ヒト頭骨（複製） 5 点
その他	山口県の石 山口県の地震 山口県の火山 タッチ化石 おたのしみ鉱物 主に顕生代における生物の出現と絶滅、大陸移動について記した年表 やまぐちの大地の成り立ちアニメ クジャク石から銅を取り出そう動画 花崗岩の薄片製作・偏光顕微鏡像動画	石灰岩 1 点、美祢層群の植物化石 1 点、銅鉱石 1 点 プレート模型 2 点 火山岩など 11 点 恐竜実物化石 2 点 鉱物 6 点 地球史年表（生物の進化編） モニター モニター、パネル モニター

■ 植物・動物展示室



主題	内容	展示資料
山口県植物相のなりたち	県内植物の4つのルーツを示すとともに、帰化植物の現状を紹介する。	レプリカ、標本など約30点
山口県の動物	山口県内に生息する代表的な昆虫類・鳥類・爬虫類・両生類・哺乳類を紹介する。	昆虫類標本約1,000点、鳥類・哺乳類剥製30点、両生類・爬虫類レプリカ30点、剥製1点
山口県の植物	山口県内各地や博物館周辺の植物の情報を画像や映像、解説、4コマ漫画などで紹介する。	緑のたより（山口県版、博物館周辺版他）、緑の小話、季節のたより、花巡り（県外編）植物ニュース、植物クイズなど
山口県の植物・動物ジオラマ	山口県の特徴的な植物相（フローラ）・動物相（ファウナ）を6シーン1／1のジオラマで紹介する。 ・海浜 ・市街地 ・河岸・ため池 ・草地 ・里山 ・深山	・ハマボウ・ハマオモト他 全5種 ・イソシギ・カブトガニ他 全8種 ・コバンソウ・マツヨイグサ他 全8種 ・ミシシippアカミミガメ他 全7種 ・キシツツジ・ホテイアオイ他 全7種 ・アカザ・カワセミ・マシジミ他全20種 ・アカネスゲ・オキナグサ他 全7種 ・ニホンアナグマ・キジ他 全5種 ・スダジイ・ギンリュウソウ他 全19種 ・タヌキ・モリアオガエル他 全32種 ・ブナ・カタクリ他 全12種 ・ツキノワグマ・ヤマネ他 全24種 植物合計61種 動物合計96種

■ 考古・歴史展示室



主題	内容	展示資料
はじめての考古学	小・中・高等学校の教科書にも登場する縄文・弥生・古墳時代の考古資料を中心にわかりやすく展示・解説している。	板状土偶、石棒、石鏃、磨製石斧、石包丁、銅鏡、馬具、短甲、勾玉、紡錘車、須恵器、耳環（展示替えあり）
明治維新と長州藩	明治維新関係資料を特集展示。特に、松下村塾コーナーでは、門下生関係資料を随時紹介。	萩城下町図屏風、毛利氏歴代肖像、毛利敬親肖像、来島又兵衛肖像、周布政之助所用陣羽織・袴、吉田松陰書簡、木戸孝允所用硯箱ほか（展示替えあり）
防長の絵図	館蔵の防長関係絵図を紹介	萩城下町絵図、行程記、芸州吉田郡山絵図

■ 天文展示室



主題	内容	展示資料
太陽系運行模型	8つの惑星が実際の公転時間の比率どおりに、太陽の周りを回り、各惑星の特徴についても、画像を使いわかりやすく解説する。	動く惑星の模型（直径4m）、モニター12台
太陽系と隕石	太陽系が生まれて、現在の姿になるまでの歴史をたどるとともに、隕石についても解説する。	隕石12点（うち2点は山口県内落下の隕石）、隕石レプリカ2点、写真5点、イラスト5点、玖珂隕石投影装置
宇宙の構成	太陽系・銀河系・銀河系外の宇宙へと、スケールを変えて繋がる宇宙の広がりを紹介する。	惑星等の模型9点、写真13点、イラスト5点、フーコーの振子
天文学の歴史	山口博物館が収蔵している天体観測機器など、天文学史に関する資料を展示。	山口博物館の収蔵資料（実物）3点、写真7点
天文ニュース	日食、惑星、季節の星座など天文現象に関する話題・予報をイラスト・写真等を使用し、紹介する。	主な天文現象の解説記事6点
山口の星空	山口県から見ることのできる星空を、大型蛍光星座板で展示。	2.6m×7.5mの大型蛍光星座板
JAXA コーナー	JAXA 提供の月面及び小惑星探査機（はやぶさ2）帰還の映像を大型ディスプレイで上映する。	モニター（55インチ） リュウグウサンプルのレプリカ

■ 天体観測室

本館の4、5階が天体観測準備室、天体観測室（アストロ光学 5mドーム）となっている。20cm屈折赤道儀（ニコン社製）を設置し、天体部門の教育普及活動・調査研究に使用している。



■ 屋外展示

<考古分野>

- | | | | |
|-----------|---------|--------|-----|
| ○ 縄文アラカシ | 佐賀県坂の下 | (縄文時代) | 1 点 |
| ○ 箱式石棺 | 山口市大内川向 | (弥生時代) | 1 基 |
| ○ 箱式石棺 | 山口市赤妻 | (古墳時代) | 1 基 |
| ○ 大坂城築城石材 | 周南市大津島 | (江戸時代) | 1 点 |

- 山口市赤妻古墳出土の^{くりぬき}刳抜式舟形石棺
1908（明治 41）年の土取作業時に発見された。山口県下唯一の例で、1993（平成 5）年に県の有形文化財に指定。

巨大な砂岩を刳抜いて作られたもので、全長 231 cm、最大幅 98 cm、全高 60 cm、蓋に 4、身に 2（うち 1 欠損）の縄掛突起を持っている。

山口盆地を統率した女性首長の棺と推定されている。



- 山口市白石茶臼山石棺群

遺跡は山口盆地中央部に延びる鴻ノ峰山麓南支丘末端部、標高約 35m の位置に立地していた。1968（昭和 43）年の住宅造成中に総数 9 基の箱式石棺が発見され、調査後、すべての遺構が当館敷地に移築復元された。弥生時代終末期～古墳時代前期における墳墓形態の変遷が見学できる。



<理工分野>

- D60 形式 1 号機関車

この機関車は、1927（昭和 2）年に川崎造船所で誕生し、東海道本線や山陽本線などで活躍していた D50 型機関車の改造車で山口県の旅客・貨物輸送を最後に 1966（昭和 41）年廃車になった。

博物館では、この由緒ある機関車を 1968（昭和 43）年 9 月に当時の国鉄から借り受け、屋外展示をしている。



<地学分野>

○山口県の化石

特牛の貝化石（新生代） 下関市
吉母の貝化石（中生代） 下関市
秋吉台の石灰岩（古生代） 美祢市

○山口県の岩石

斑れい岩（萩市）、安山岩（萩市）、凝灰岩（萩市）、花崗岩（山口市）、砂岩（美祢市）、泥岩（下関市）、石灰岩（美祢市）、チャート（岩国市）、片岩（山口市）、片麻岩（岩国市）



<植物分野>

○樹木プレート（ミニ植物園）

博物館の敷地内とその周辺（春日山）の散策路に代表的な樹名の解説プレートを45枚（2022年度末現在）設置し、ミニ植物園として、樹木の名前と簡単な特徴の解説をしている。



「ふしぎ！おどろき！大動物展 ～おおきなあれ 野生のどうぶつ物語～」

1 趣旨

地球上のすべての生物は、つながりあい、多様な世界を維持しています。長い年月の中で動物たちは生息地の環境に適応し、子孫を残し、延々と生命をつないでおり、その生き様は動物種により異なります。

本展は、動物たちが自然淘汰の中で獲得した行動や形態・機能の多様性について、剥製や3D映像をはじめとする最新の機器でとらえた世界初公開を含む新たな映像等を用いることにより、楽しみながら理解を深め学習できるものとなっています。展示は、動物たちの子育てに注目し、しあわせ動物写真家 福田幸広氏が世界・日本・山口で撮影した写真や映像等を使い、どのようにして親が子の世話をし、子が成長していくのかを軸に展開します。また、3Dの180度VR映像により野生動物のおどろきの世界に迫るとともに、山口県の動物たちの知られざる行動や生態も紹介します。

展示のほか、県内で動物を飼育している動物園や水族館施設と連携した取組を通して、子どもたちが生きている動物への理解と関心を高める契機とします。

2 主催

山口県、山口県教育委員会、「ふしぎ！おどろき！大動物展」実行委員会（山口県立山口博物館、(公財)山口県ひとづくり財団、(地独)山口県産業技術センター、tysテレビ山口、山口新聞社）

3 協賛（五十音順）

秋吉台自然動物公園サファリランド、宇部市ときわ動物園、下関市立しものせき水族館「海響館」、周南市徳山動物園

4 協力

北九州市立自然史・歴史（いのちの旅）博物館、井の頭自然文化園、山口カブトガニ研究懇話会、山口大学農学部細井研究室、リトルレオナルド社、株式会社RABO、Biologging Solutions Inc.、内藤靖彦（国立極地研究所名誉教授）、東京大学大気海洋研究所、山口県農林総合研究センター、山口県水産研究センター、山口市農林政策課、山口博物館動物サポーター、福田幸広、ゆうきえつこ、渡辺伸一、原田直宏、細井栄嗣、松本哲朗

5 後援

NHK山口放送局、エフエム山口、山口ケーブルビジョン、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、中国新聞防長本社、宇部日報社

6 会期

令和4年7月15日（金）～8月28日（日）36日間開催

（期間中の休館日：月・火、7月18日（月：海の日）・8月15日（月）・16日（火）は開館）

7 会場

山口県立山口博物館 3階展示室

8 観覧料

一般 1,000円 学生・シニア（70歳以上）650円

※協賛館との連携入館割引制度を利用した場合は、一般 800円、学生・シニア500円

18歳以下の方および小・中・高等学校、中等教育学校、総合支援学校（特別支援学校）に在籍する児童生徒は無料

9 展示内容

第1部 さぐろう！動物たちの暮らし どんな方法で動物を調べるの！

動物サポーターが作製したジオラマの森の中に、ツキノワグマ、キツネ、タヌキ、アナグマ、テン、イタチ、ニホンザル、ノウサギ、ニホンジカ、ムササビ、アカネズミ、ヒメネズミ、コウベモグラ、フクロウなど20種の野生動物とフンを配置し、調査用具であるトラップや個体には発信機を付けるなど調査の現場を再現した。ムササビの食痕、ヤマネの巣材など調査で採集した痕跡、自動撮影カメラや調査で使用する道具を展示した。

赤外線小型カメラをコウベモグラのトンネル内に設置し、コウベモグラ、ニホンジネズミ、ヒミズ、ハタネズミの利用が確認された映像と剥製をジオラマ内に展示した。サーモカメラで撮影されたカヤネズミとヒメネズミの映像を放映した。暗闇で赤外線カメラとサーマルカメラの体験路を設置した。

第2部 世界や日本の動物大集合 のぞいてみよう！動物たちの子育て

おかあさんから赤ちゃんへのプレゼントと題して、北アメリカのシロイワヤギ・ラッコ・ニシインドマナティー、東南アジアのボルネオオランウータン・クロザル、アフリカのチーター・ライオン・アフリカゾウ・キリン、北極海のタテゴトアザラシ、オーストラリアのウォンバット・オーストラリアアシカ、南アメリカのフォークランドのキングペンギン・イワトビペンギン・ジェンツーペンギン、日本のイノシシ・ニホンザル・ニホンリスなど20種の世界・日本の野生動物の子育てを写真と映像で紹介した。アフリカゾウやキリンの実物大写真、哺乳類・鳥類合わせて78体の剥製を展示し形態や大きさも理解できるようにした。

第3部 おどろき！迫りくる動物たち 動物のくらしを3DVRで体験

アナグマの子育てや巣穴、オオサンショウウオのオスの子育てを紹介した。とくにアナグマの3D映像は、野生動物では初めて撮影された映像による、VR・タブレットで映像体験ができた。日本で初めて撮影されたオオサンショウウオのオスの子育て映像や写真を展示した。

第4部 やまぐちの動物たち 最新技術で解明！

山口湾のカブトガニの産卵・幼生の誕生、特に一齢幼生が海へと飛び出す瞬間を初めて撮影した映像を公開した。日本で一番小さなネズミ カヤネズミの巣作りや子育て、特に野外で初めて撮影された授乳シーンを映像で紹介した。最新の動物行動研究機器であるバイオロギング機器の実物機器の変遷と、実際に動物につけての行動観察記録を展示し、山口県でのホシエイ・スナメリ・アライグマ・ヌートリアのバイオロギング機器を使った調査を紹介し、イルカの超音波体験を行った。福田幸広氏の著作物の展示をした。

10 記念行事

・特別展記念スライドトークショー

講演者：福田幸広（しあわせ動物写真家）

日 時：7月24日（日）10:00～・14:00～

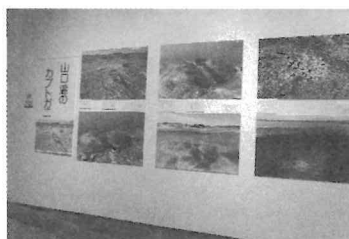
場 所：山口県立図書館レクチャールーム

・バイオロギングって何？

講演者：渡辺伸一（バイオロギング研究者）

日 時：7月31日（日）10:00～・14:00～

場 所：山口県立山口博物館別館講座室



令和4年度地学分野企画展 開催要項

- 1 名 称 ^{ずかん}図鑑からとび出した!? カラフル^{こうぶつ}鉱物大集合!!
一色^{いろ}いろな鉱物がいっぱい♪ワクワク全開ミネラルワールドー

2 趣 旨

鉱物は天然に産する固体物質で、固有の化学組成と結晶構造をもちます。私たちはそこから鉄や銅など有用な成分を取り出したり、ダイヤモンドやエメラルドなど宝石として身に付けたりして利用しています。鉱物はその幾何学的な形、繊細な色彩、独特の輝きなどとても魅力的で、ワクワクして心が躍ります。

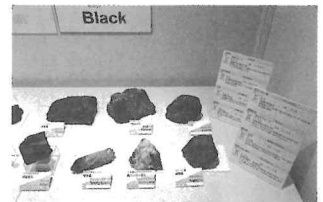
今回の展示では、さまざまな魅力の中で特に色に注目して鉱物を紹介します。山口県産出の鉱物のほか県外や他国産出の鉱物を、着色の原因の解説や実験動画とともに展示します。この機会に、カラフルな鉱物の魅力を感じてみてください。

- 3 主 催 山口県立山口博物館

- 4 会 期 令和4年4月27日（水）～6月19日（日）
9：00～16：30（入館16：00まで）

- 5 会 場 山口県立山口博物館 3階特別展示室

- 6 観覧料 常設展観覧料に含まれます（一般 150円、学生 100円）
※18歳以下と70歳以上、高等学校・中等教育学校・
総合支援学校（特別支援学校）の生徒は無料



7 展示内容

- ① 色^{いろ}いろな鉱物がいっぱい♪

山口県産のほか県外や他国産の鉱物を色別に約100点展示します。ルビーやサファイアのように同じ化学組成でも違う色味をもつ鉱物や、多彩なガーネットグループなども紹介します。

- ② ○○したらこんな色!?

ブラックライトを照射したときの色や削ったときの粉の色は、普段目にする色とは異なり、鉱物の同定にも役立ちます。実物と実験動画の展示をします。

サイエンスやまぐち 2022

開催報告

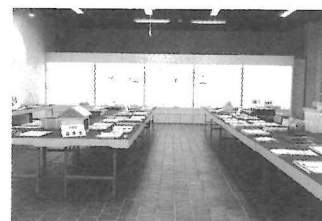
1 趣 旨

児童生徒たちの常日頃の研究成果を、作品の展示や研究発表会を通して広く県民の方々に見ていただく場を提供し、その成果を顕彰することにより、青少年はもとより県民の自然や科学への関心を深め、科学活動が活発となることを目指すものです。

2 主 催 山口県、山口県教育委員会

3 共 催

一般社団法人山口県発明協会
山口県小学校教育研究会理科部
山口県中学校教育研究会理科部
山口県高等学校教育研究会理化部会
山口県高等学校教育研究会生物部会



4 内 容

児童生徒の研究成果を顕彰する取組として、科学作品展と科学研究発表会を実施する。両取組の総合開会式・表彰式を開催する。

(1) 第76回山口県科学作品展

- ・自然の部 県内の児童生徒が、自然を相手にして取り組んだ観察・実験の研究物の優秀作品 160点
- ・創造の部 県内の児童生徒が、今年度創意工夫した生活用具や遊び用具などの優秀作品 46点

会 期 令和4年10月28日（金）～11月13日（日）

※開場時間 9:00～16:30 入場は16:00まで

※10/31(月)、11/7(月)は休館日、15日間開催

※10/28(金)は、総合開会式終了後に開場(10:30頃)

会 場 山口県立山口博物館（山口市春日町8-2）

観覧料 常設展入館料に含む

一般 150円（団体 120円） 学生 100円（団体 80円）

18歳以下及び70歳以上、小・中・高等学校・中等教育学校・特別支援学校等に在籍する児童生徒は無料。団体は20名以上

（教育・文化週間期間中の11月1日(火)～6日(日)は、すべての入館者が無料。）

(2) 第76回山口県科学研究発表会

県内の児童生徒の科学に関する研究発表作品を、小学校の部は資料・DVDの

形で募集し、審査する。中学校・高等学校の部はオンライン中継により対面で審査を行う。

小学校の部（DVDによる審査）

審 査 令和4年10月13日（木）

会 場 山口県立山口博物館会議室（山口市春日町8-2）

中学校・高等学校の部（オンライン中継による審査）

審 査 令和4年10月13日（木）

会 場 山口県立山口博物館講座室（山口市春日町8-2）

(3) 総合開会式・表彰式

日 時 令和4年10月28日（金）10:00～10:30

会 場 山口県立山口博物館（山口市春日町8-2）



レンズでのぞいた宇宙の不思議
やまはく の 天 体 望 遠 鏡
開催要項

1 趣 旨

山口県立山口博物館では、88年前の1934年（昭和9年）頃から天体観望会を行った記録が残っています。現在では、出前授業をはじめ、観望会など多くの天文分野の教育普及活動を行っています。活動の中心は、天体望遠鏡を使って天体観察をすることであり、子供たちから大人まで多くの人が星について学び、星への魅力を感じています。

本企画展では、過去の教育普及活動で星の魅力を伝えた天体望遠鏡について、普及活動が始まった当初から現在に至るまでの天体望遠鏡を展示するとともに、天体望遠鏡の仕組みと教育普及活動の歴史やその成果について、美しい天体写真のパネルなどを用いながら紹介します。展示をとおして宇宙について興味を持っていただければ幸いです。

2 会 期 2022年12月9日（金）～2023年4月9日（日） 99日間開催

9:00～16:30（入館は16:00まで、毎週月曜日休館）

3 会 場 山口県立山口博物館 3階

4 主 催 山口県立山口博物館

5 観覧料 常設展観覧料（一般 150円、学生 100円）

＊70歳以上、19歳未満の方及び高等学校・中等教育学校・総合支援学校（特別支援学校）等に在学する生徒は無料。

6 展示内容

天体望遠鏡の実物資料と解説を展示します。

- (1) 当館所蔵の代表的な天体望遠鏡の展示
- (2) 望遠鏡の歴史と仕組みについての展示とパネル
- (3) 当館の望遠鏡で撮影した天体写真の展示



7 関連行事

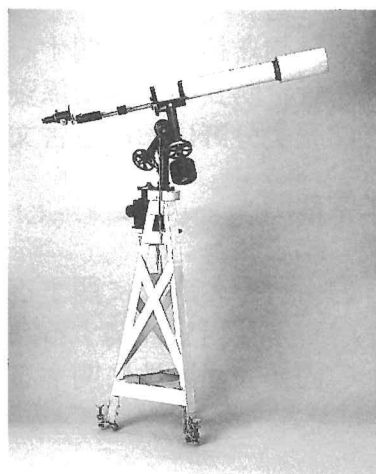
- (1) 期間中に当館天文台の見学ツアーの実施
- (2) 教育普及講座にて、「惑星を見る会」・「望遠鏡を見比べよう！」を実施

8 その他

新型コロナウイルス感染症により、会期や展示内容が変更になる場合があります。



1941年9月の日食観測にて



3 調査・研究

(1) 調査研究課題

天文学部門

岩村 和政

- 山口県内の天文資料・落下隕石・古天文機器調査
- 天文展示資料、教育普及活動についての調査研究
- 大型望遠鏡を活用した天体写真や映像配信に関する調査研究

地学部門

赤崎 英里

- 山口県の岩石資料調査
- 岩石・鉱物の有効な展示方法についての研究

植物学部門

杉江 喜寿

- 山口県産植物の分布・生態調査
- 収蔵資料のデータベース化
- 植物資料の効果的な展示や博物館教育及び教育普及活動への活用についての研究

動物学部門

田中 浩

- 山口県内に生息する哺乳類の生息分布・生態調査
- 山口県内の動物の生息分布調査及び標本。文献、情報のデータ化
- 山口県における中型食肉目の社会構造・生態および競合関係の解明

考古学部門

阿部 来

- 山口県内の遺跡に関する調査・研究
- 歴史時代の考古資料に関する研究
- 考古分野の効果的な展示や活用、教育普及活動についての研究

歴史学部門

山田 稔

- 長州藩絵図方に関する調査研究
- 近世防長の街道関係資料調査
- 歴史分野における古文書の効果的展示方法に関する研究

理工学部門

漁 剛志

- 山口県の産業に関する調査・研究
- 科学技術史に関する調査・研究
- 固体表面物性に関する最新動向調査

(2) 研究発表・著作

岩村 和政

- 2022. 4 「惑星大集合!! 明け方の東の空に注目！」宇部日報（4月20日号）
- 2022. 6 「6月10日は「時の記念日」」宇部日報（6月8日号）
- 2022.12 「星座制定100周年」サンデー山口（12月7日号）
- 2022.12 「星座が決まって100周年！」宇部日報（12月21日号）
- 2023. 2 「山口博物館の天体望遠鏡」サンデー山口（2月1日号）
- 2023. 2 「やまはくの大天体望遠鏡」宇部日報（2月1日号）
- 2023. 3 「天体観望のデジタル化の取組」山口県立山口博物館研究報告 第49号

赤崎 英里

- 2022. 4 「雲母の弾力にビックリ！」サンデー山口（4月6日号）
- 2022. 5 「カラフル鉱物大集合！」サンデー山口（5月4日号）
- 2022. 5 「鉱物の企画展を開催中」宇部日報（ほっとやまはくタイム13：5月11日掲載）
- 2022. 5 「鉱物の世界の「華麗なる！？一族」」宇部日報（ほっとやまはくタイム14：5月25日掲載）
- 2022. 7 「地味な岩石もカラフルに 岩石を偏光顕微鏡で見てみよう」宇部日報（ほっとやまはくタイム18：7月20日掲載）
- 2022.10 「山口県は岩石の宝庫」宇部日報（ほっとやまはくタイム24：10月12日掲載）
- 2023. 2 「鉱物の楽しみ方ガイド」宇部日報（ほっとやまはくタイム33：2月22日掲載）
- 2023. 3 「鉱物の有効な展示と解説方法 ―企画展「図鑑からとび出した!?カラフル鉱物大集合!!」を例に一」山口県立山口博物館研究報告 第49号

杉江 喜寿

- 2022. 4 「2022年度もリアルとバーチャルで博物館を楽しもう！」宇部日報（ほっとやまはくタイム12：4月5日掲載）
- 2022. 6 「たんぽぽもいろいろ」サンデー山口（6月1日号）
- 2023. 7 「野山で出会う動物たち」サンデー山口（7月6日号）
- 2022.11 「晩秋から初冬の「秋吉台」植物さんぽ」宇部日報（ほっとやまはくタイム28：11月23日掲載）
- 2023. 1 「山口県の植物さんぽ（2） 瀬戸内海の海岸（冬）編」 宇部日報（ほっとやまはくタイム31：1月25日掲載）
- 2023. 3 「山口県の植物さんぽ（3） 日本海の海岸（春の角島）編」 宇部日報（ほっとやまはくタイム34：3月8日掲載）
- 2023. 3 「山口県立山口博物館所蔵の植物標本（明治時代）」 山口県立山口博物館研究報告 第49号

田中 浩

2022. 8 「特別展「ふしぎ！おどろき！大動物展」」宇部日報ほっとやまはくタイム①⑨（8月3日掲載）
2022. 8 「ふしぎ！おどろき！大動物展」サンデー山口（8月3日号）
2022. 8 「特別展「ふしぎ！おどろき！大動物展②」」宇部日報ほっとやまはくタイム②⑩（8月17日掲載）
- 2022.10 「山口県に生息する哺乳類の興味深い行動について」（講演）やまぐちひとものがたりセミナー 山口セミナーパーク（10月29日）
- 2022.11 日本動物行動学会 2022 Editor's Choice article 受賞 Cooperative den maintenance between male Japanese badgers that are delayed dispersers and their mothers. (共著) Journal of Ethology 40:3-11. (ニホンアナグマ遅延分散オスと母アナグマによる共同の巣穴管理)
- 2022.12 「冬眠する山口県のヤマネ」宇部日報ほっとやまはくタイム②⑧（12月7日掲載）
2023. 1 「ノウサギ」サンデー山口（1月4日号）
2023. 3 「春は出産の季節」宇部日報ほっとやまはくタイム③⑤（3月22日掲載）
2023. 3 2022年度特別展「ふしぎ！おどろき！大動物展」について 山口県立山口博物館研究報告第49号

阿部 来

2022. 5 「中世越前の瓦器とその終焉」『中近世陶磁器の考古学』第16巻 雄山閣
2022. 6 「日本遺産「福井・勝山石がたり」と石の研究」石造物研究会 研究報告
2022. 7 「博物館の収蔵庫に眠る考古資料」宇部日報ほっとやまはくタイム①⑦（7月6日掲載）
2022. 8 「北陸」『新版 概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社
2022. 8 「勾玉作りから学ぶこと」宇部日報ほっとやまはくタイム②⑪（8月3日掲載）
2022. 9 「日本海流通と越前若狭の貿易陶磁」『貿易陶磁研究』No. 42 日本貿易陶磁研究会
2022. 9 「日本遺産を通じた文化財の活用」益田市観光未来塾 報告
- 2022.10 「中世における石の土木利用とその地域性」山口考古学会 研究発表
- 2022.10 「ルーツは弥生時代、埴輪を学ぼう」宇部日報ほっとやまはくタイム②⑤（10月26日掲載）
- 2022.11 「不思議な形の土器」サンデー山口（11月6日号）
- 2022.12 「中世末から近世初頭における越前府中の都市空間復元」『高山清水一赤澤徳明氏退職記念論集一』論集製作委員会

山田 稔

2022. 6 「書画鑑定と印影」宇部日報ほっとやまはくタイム①⑥（6月22日掲載）
2022. 9 「幕末維新の人物と写真①」宇部日報ほっとやまはくタイム②③（9月28日掲載）
- 2022.10 「高島北海と長門峡焼」サンデー山口（10月6日号）
- 2022.12 『山口県史 通史編 近世』（分担執筆）、山口県
2023. 1 「幕末維新の人物と写真②」宇部日報ほっとやまはくタイム③⑩（1月11日掲載）

2023. 3 「山口県立山口博物館所蔵幕末維新関係資料ガイド4」（山口県立山口博物館研究報告第49号）
- 漁 剛志
2022. 9 「収蔵資料紹介「携帯型写真電送装置」」サンデー山口（9月7日号）
2022. 9 解体！昔の電子卓上計算機 宇部日報ほっとやまはくタイム23（9月14日掲載）
2022. 11 展示をリニューアル「すごいおもちゃコーナー」 宇部日報ほっとやまはくタイム26（11月7日掲載）
2023. 3 「収蔵資料紹介「ニキシー管」」サンデー山口（3月2日号）
2023. 3 「すごいおもちゃコーナーの概要について」山口県立山口博物館研究報告第49号

4 教育普及

(1) 教育普及講座

講座等（令和4年度）

部門	講座名・内容	実施日	場所	対象	受講者
天文	はじめての望遠鏡 講師：岩村 和政（山口博物館）	6/5	当館	一般県民	25
	皆既月食を見る会 講師：岩村 和政（山口博物館）	11/8	当館	一般県民	30
	惑星を見る会 講師：岩村 和政（山口博物館）	12/17	当館	一般県民	雨天中止 (※)
	望遠鏡を見比べよう！ 講師：岩村 和政（山口博物館）	12/18	当館	一般県民	18
	青空に金星と木星の接近を見る会 講師：岩村 和政（山口博物館）	3/2	当館	一般県民	20
地学	地学教室①「地質観察」 講師：赤崎 英里	6/19	山口市	一般県民 (小学3年生以上)	14
	地学教室②「スライスした岩石を観察しよう」 講師：赤崎 英里	10/16	当館	一般県民 (小学3年生以上)	10
	地学教室③「鉱物テラリウムをつくろう」 講師：赤崎 英里	3/8	当館	一般県民 (18歳以上)	15
植物	植物教室①植物標本をつくって調べよう！入門編 講師：杉江 喜寿（山口博物館）	6/25	当館	一般県民	21
	植物教室②葉脈標本のしおりやミニ図鑑をつくろう！ 講師：杉江 喜寿（山口博物館）	8/27	当館	一般県民	23
	植植物教室③落ち葉や押し花でランタンをつくろう！ 講師：杉江 喜寿（山口博物館）	11/26	当館	一般県民	20
動物	初夏の昆虫観察 講師：田中 浩（山口博物館）・動物サポーター	5/29	鴻ノ峰	小学生以上	18
	夏の昆虫採集と標本作り 講師：田中 浩（山口博物館）・動物サポーター	7/27～ 28	当館・周辺	小学生以上	40
	秋の昆虫観察 講師：田中 浩（山口博物館）・動物サポーター	9/25	鴻ノ峰	小学生以上	29
	里山の動物観察会 講師：田中 浩（山口博物館）・動物サポーター	3/19	当館・周辺 山里	一般県民	20
考古	勾玉を作ろう！ 講師：阿部 来（山口博物館）	8/5	当館	一般県民	25
	埴輪を作ろう！ 講師：阿部 来（山口博物館）	10/8	当館	一般県民	25
	古代ウォーク 講師：横山 成己（山口大学埋蔵文化財資料館・助教） 水久保 祥子（同・技術職員）	11/12	山陽小野田市	一般県民	12
	古代の機織りでコースターをつくろう！ 講師：阿部 来（山口博物館）	11/23	当館	一般県民	18

歴史	古地図を片手に街を歩こうー肥中街道・山口編1ー 講師：山田 稔（山口博物館）	5/21	山口市	一般県民	19
	古地図を片手に街を歩こうー萩往還・山口編ー 講師：山田 稔（山口博物館）	10/2	当館・ パークロード周辺	一般県民	11
	古地図を片手に街を歩こうー肥中街道・山口編2ー 講師：松原 清（吉敷地域文化振興協議会会長）	12/3	山口市	一般県民	15
理工	ロボットプログラミング教室（初級） 講師：漁 剛志（山口博物館）	6/12	当館	一般県民	40
	科学工作講座 講師：漁 剛志（山口博物館）	8/3～ 4	当館	一般県民	53
	雪の結晶をつくろう！ 講師：漁 剛志（山口博物館）	12/11	当館	一般県民	15
	ロボットプログラミング教室（中級） 講師：漁 剛志（山口博物館）	2/5	当館	一般県民	42
参加者数 合計					578

※ 天候不順により中止

（２） 学芸員派遣・社会貢献

岩村 和政

- ・日本のクリスマスは山口から実行委員（山口商工会議所）
- ・サイエンスアカデミー講師（防府市青少年科学館）
- ・令和４年度山口県高等学校定時制通信制理科教育研究会講師

赤崎 英里

- ・山口大学・美祢市パートナーシップ事業運営協議会監事
- ・発展探究Ⅱ（課題研究）グループディスカッションアドバイザー（県立宇部高等学校）
- ・夏休み文化財教室 in 長門峡講師（山口市文化財保護課）
- ・山口県埋蔵文化財センター令和４年度発掘調査遺跡石材鑑定（山口県埋蔵文化財センター）
- ・山口地学会事務局

杉江 喜寿

- ・山口県希少動植物調査検討専門部会員（山口県自然保護課）
- ・タンポポ調査・西日本山口県事務局
- ・美祢市立秋吉台科学博物館基本構想策定委員
- ・美祢市立秋吉台科学博物館協議会委員
- ・「こどもの読書週間」講座講師（2022. 5. 4 山口県立山口図書館）
- ・山口大学理学部博物館実習講師（2022. 6. 22）
- ・長崎国際大学博物館実習講師（2022. 9. 18）
- ・「日常をときほぐす観光」講演会講師（2023. 2. 14 周南市観光交流課・鹿野中学校）

田中 浩

- ・ 日本哺乳類学会 『哺乳類科学』編集委員
- ・ 西中国山地ツキノワグマ保護管理対策協議会委員（山口県・広島県・島根県）
- ・ 山口県野生生物保全対策検討委員会委員（山口県自然保護課）
- ・ 山口県イノシシ対策検討委員会委員（山口県自然保護課）
- ・ 山口県シカ対策検討委員会委員（山口県自然保護課）
- ・ 山口県サル対策検討委員会委員（山口県自然保護課）
- ・ 防府市文化財審議会委員（防府市）
- ・ 下関市立豊田ホテルの里ミュージアム運営協議会委員（下関市）
- ・ 木屋川ダム再開発事業環境影響評価技術検討委員（山口県河川課）
- ・ 至誠館大学非常勤講師（生物学）

阿部 来

- ・ 山口県地方史学会幹事

山田 稔

- ・ 山口県立大学非常勤講師（博物館学内実習Ⅱ）
- ・ 山口県史編さん執筆委員
- ・ 下関市立歴史博物館協議会委員
- ・ 下関市文化財保護審議会委員
- ・ 岩国市博物館整備検討委員会委員
- ・ 毛利博物館資料評価委員
- ・ 山口県地方史学会幹事
- ・ 東岐波郷土誌研究会総会講演講師（2022. 6. 4 東岐波郷土誌研究会）
- ・ 山代郷土史研究会歴史講演会講師（2022. 9. 4 山代郷土史研究会）
- ・ 山口県職員初任者研修講師（2022. 10 ビデオ、山口県）
- ・ 「萩博物館特別展ギャラリートーク講師」（2022. 12. 8 萩博物館）
- ・ 「古地図を片手に街を歩こう」ガイド研修会講師（2022. 12. 8 山口県観光連盟）

漁 剛志

- ・ 第7回こどもワイワイ図書館ワークショップ講師（2022. 4. 30 山口市立中央図書館）
- ・ サイエンスやまぐち2022創造の部審査員
- ・ 令和4年度山口県少年少女発明クラブ交流会講師（2022. 8. 8 KDDI維新ホール）
- ・ 2022やまぐち発明くふう展審査員
- ・ 2022やまぐち未来の科学夢絵画展審査員
- ・ 岩国市科学センター整備検討委員会委員

(3) レファレンス

教育普及活動の一環として、各部門の学芸員によるレファレンスサービスを行っている。

電話・郵便・来館いずれでも随時受け付けている。

個人では小学生から成人まで、団体では学校、各種機関、企業、報道機関等多方面から相談が寄せられている。

各分野の学術的な質問、館蔵資料についての問い合わせ、資料の同定依頼等が多い。

なお、考古・歴史資料の鑑定依頼は受け付けていない。

※分野別の件数等については、Ⅲ 令和4年度利用状況及び年次推移 (3) 教育普及講座実施状況に記載

(4) 学校や地域団体への教育支援

博物館と学校・地域との連携を進めるために、平成16年度から以下の事業を実施している(地域との連携事業については平成19年度から)。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「ミニ博物館」のプログラムは原則的には実施していない。また、社会見学等の来館対応では、同時刻に2団体以上の受け入れをしない、団体間の時間を1時間以上空ける、入館前の検温、体調チェックを徹底する、等の対策を実施した。

① 出前授業

学芸員や長期研修教員(ミュージアムティーチャー)が学校等に行き、収蔵資料や機器等を可能な範囲で活用しながら、より質の高い授業になるように、学校等の教育活動を支援した。

教科の学習や総合的な学習の時間、資料展示(ミニ博物館)など、学習内容などを協議して実施し、令和4年度にはロボットプログラミング教室、昆虫教室、化石レプリカづくり、天体観測、勾玉づくりなどのプログラムを、小・中学校、地域団体など233団体のべ5,474人に実施した。

② 社会見学などに関する対応

社会見学などの団体見学に対し、担当者による館内案内や展示の解説、ワークシートなどを利用しての学習を行っている。令和4年度には、小学校、中学校、特別支援学校、地域団体など105団体、4,434名の利用があった。

③ 職場体験学習への対応

施設見学や学芸員の解説、社会見学ガイド実習等、各種体験活動をとおして、学芸員の仕事や博物館の機能について学習している。令和4年度は中学校2校のべ11名を受け入れた。

④ 館内授業

学習内容に沿って、展示資料や収蔵資料などを活用し、館内授業を行っている。令和4年度は、化石レプリカづくり、ロボットプログラミング、埴輪づくりなどのプログラムを小学校、中学校など5校、114名に実施した。

⑤ 教材貸出

小・中学校用の学習教材の開発を手がけている。研修教員が出前授業等で使用する教材、学校が各教科や総合的な学習等で使用する教育用資料を準備した。令和4年度は、42団体への貸出を行った。

⑥ 学習コーナー

学習コーナーとして、既存の図書約900冊を用意し、各分野の学習ができる環境を整備している。コーナーの一部には山口県の自然や歴史・科学・宇宙などに広く関心をもたせるために「なっとくんニュース」や出前授業制作品を展示した。

⑦ 長期研修教員(ミュージアムティーチャー)

令和4年度は、特別支援学校教諭(1名)、中学校教諭(1名)、中学校教頭(1名)の3名が1年間研修を行った。研修内容は、博物館学校地域連携教育支援事業の実施を通じての博物館の機能に関する一般的な研修、専門的な研修、県内外の博物館視察、報告書の作成などである。

⑧ 教員のための博物館の日(博物館一日体験研修)

小・中・高等学校の教員計39名が一日の研修を行った。研修内容は、博物館機能の解説講義、博物館学校地域連携教育支援事業の実践報告、特別展・館内見学、実習である。

⑨ 博物館学校地域連携推進会議

平成22年度から、前ミュージアムティーチャーと当館学芸員とがこれまでの活動を振り返りながら、博物館の人的物的な教育資源を今まで以上に有効に活用して、学校や地域のニーズに対応した質の高いプログラムを提供することを目的とする「博物館学校地域連携推進会議」を開催している。

⑩ 広報活動

博物館学校地域連携教育支援事業の活用を推進するために以下の活動を行ってきた。

- ・各地域の校長会や小・中学校の理科部会などに出向いて本事業の紹介
- ・「博物館ガイド」、「事業報告書」配付、月1回の「博物館だより」配信、ホームページ掲載
- ・広報誌「なるほどなっとくんニュース」を発行、ホームページ掲載

(5) サポーター制度

サポーター制度は、山口博物館の理念や活動に共感し、ともに山口博物館を作っていこうという意志を有する方に登録いただき、博物館の取組等に対する様々なサポート活動を行っている。

令和5年3月末の登録者数は46名である。令和4年度の活動はのべ200日以上、のべ800名以上のサポーターが活動をした。今年度の各分野別の活動状況を報告する。

① 天文部門サポーター活動

天体観望会など教育普及の天文行事の実施サポートを行った。観望会の準備、望遠鏡の操作、観望会一般参加者の受付・案内・誘導、観望会での解説、観望会の片付けなどで、その他望遠鏡のメンテナンスや資料整理のサポート活動、天文分野の企画展の展示活動を行った。天体観望会や天文ワークショップなど年間15回実施し、のべ48人の天文サポーターが活動した。



企画展の展示準備の様子



「はじめての望遠鏡」講座で望遠鏡の解説

② 理工部門サポーター活動

収蔵資料の整理やデジタル化、工作講座や特別展などで使用する教材の開発及び教育普及行事のサポートを行うグループに分かれ、それぞれ、毎週金曜日及び教育普及行事当日に活動を行った。のべ68人の理工サポーターが活動した。



「科学工作講座」での指導



「雪の結晶をつくろう」での指導

③ 植物部門サポーター活動

植物標本作成（台紙への貼り付け作業など）、植物標本のデータ整理（パソコンへのデータ入力など）、植物標本の配架作業（標本棚への配架や標本の検索・確認など）を行う全体的な活動日を毎月の最終水曜日と定め活動を行った。植物標本のデータ整理では、毎週水曜日に活動を実施した。

その他にも、教育普及講座のサポート活動や秋吉台での希少植物の植生調査など、のべ45回、152人の植物サポーターが活動した。



植物標本の作成



植物標本のデータ入力



植物調査（秋吉台）

④ 動物部門サポーター活動

哺乳類・鳥類などの仮剥製・骨格標本作製を行う「ホネっこ」グループの活動ができた。毎週木曜を標本整理日と定め貝類・昆虫類・魚類の整理と登録、標本作製作業を行った。GBIF事業については、これまで45,000件の山口博物館の昆虫類標本・軟体動物が公開されているが、本年度新たに7,000件申請した。また、教育普及行事のサポート活動を行い、講師として、参加者の指導と安全管理を行った。地域のインベストリー調査として2015年4月から月2回土曜に鴻ノ峰生物採集・観察・標本作製を行った。2023年3月までの8ヶ年で、昆虫類1,500種

以上確認し、採集した個体は10,000を超えた。動物サポーターの活動報告として「サポちゃん通信10号」を9月に、「サポちゃん通信11号」を3月に発行した。また、特別展「ふしぎ！おどろき！大動物展」のジオラマ展示物作製と展示作業を行った（写真）。会期は2022年7月15日から8月28日で、博物館3階で行った（下段写真）。



原寸大の型紙を基にジオラマ作製



アナグマの巣穴作製



展示会場でジオラマの組み立て



完成したジオラマ手前



完成したジオラマ奥



アナグマの巣穴展示

⑤ 地学部門サポーター活動

1名が活動し、不定期で資料整理を行った。

5 その他

(1) 刊行物

山口県立山口博物館研究報告 第49号

当館職員の研究報告で、年1回発行。配布先は全国の博物館、大学、その他の研究機関。

発行部数 650部、B5判、78頁、2023年3月発行

山口県の自然 第83号

山口県の自然に関する報告誌で、投稿は県民に開放している。発行先は、全国の自然系博物館、大学、研究機関、県内の図書館、中学・高校の図書館等

発行部数 650部、B5判、26頁、2023年3月発行

「サイエンスやまぐち2022」出品者目録

「サイエンスやまぐち2022」の開催にあたって出品者・作品のリストを作成し、観覧者に無料配布。

発行部数 1,000部、A4判、4頁、2022年10月発行

山口県立山口博物館館報 第44号

令和3年度の博物館事業の報告書。配布先は県内の小・中・高・大学、博物館、図書館で、県外は当館と関連のある研究・教育機関。

発行部数 800部、A4判、63頁、2023年2月発行

博物館学校地域連携教育支援事業報告書(令和4年度版)

令和4年度の博物館学校地域連携教育支援事業の報告書は、利用案内・長期研修報告として県内の小・中学校等に配布。 520部、A4判、47頁、2023年3月発行

(2) 博物館実習・インターンシップ・社会体験研修

学校名	人数(人)	期 間	内 容
博物館実習 京都府立大学 山口大学	1 1	8/1～8/6	総務一般、学芸一般、展示実習等
インターンシップ 山口大学 福岡大学 山口県立防府西高等学校	1 1 3	8/1～8/5 (高校は8/3～4)	博物館業務体験
中堅教諭等資質向上研修 山口市立宮野小学校	1	8/1～3	博物館業務体験

(3) 山口県博物館協会(事務局：山口県立山口博物館)

山口県博物館協会は、昭和38年に発足している。現在、山口県内の多くの博物館等が加盟しており、令和4年度末の加盟館数は60館園となっている。

協会の事業は、年1回の総会をはじめ、研修会、各種刊行物の発行など多岐にわたっており、加盟館相互の連携を図りつつ、博物館事業の普及発展を目的として活動を行っている。

山口博物館は、協会発足以来、会長館・事務局を務めている。平成25年度には創立50周年記念式典を挙行了した。

(4) 日本博物館協会中国支部

(事務局：R4～R5 広島県立歴史民俗資料館)

日本博物館協会中国支部は昭和49年に発足し、中国5県に所在する博物館協会の会員により構成しており、令和4年度末の加盟館数は77館園となっている。

支部の事業としては、年1回の総会をはじめ、研修会、会報の発行などがあり、中国地区内の館園相互の連携を図り、教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的として活動を行っている。

令和4年度は、役員会・総会については、書面による決裁により開催された。研修会はピュアリティまきび(岡山市)にて開催された。

山口博物館は、令和4・5年度の理事を務めている。

V 基本方針と令和5年度の事業概要

1 基本方針

(1) 文化の継承と発展に努める

本県は古くから大陸との交流において大きな役割を果たし、特色ある文化を育んできた。当博物館は、様々な活動を通じて山口県の自然と歴史を調査研究し、本県文化の継承と発展・創造に寄与する資料を収集・保管し必要に応じて提供する。

(2) 人文系と自然、理工系の総合博物館として活動する

人文系及び自然、理工系をあわせ有する博物館として、その特色を生かしながら、郷土色豊かな総合博物館としての発展をめざす。

(3) 豊かな心を育み人づくりに資する施設として貢献する

心の豊かさと、創造性に富む人づくりの推進の一翼を担う社会教育施設として、活発な活動を行う。

(4) 多彩な博物館活動を行う

- ・ 資料の収集・保管に努める。
- ・ 資料の調査・研究に努める。
- ・ 展示活動の充実を図る。
- ・ 普及教育活動の充実を図る。

2 令和5年度の重点取組事項

新型コロナウイルスの感染状況も考慮しつつ、当館の収蔵資料に「リアル」と「バーチャル」の両面で触れて学べる機会を拡充する。

各種講座の安全な実施をはじめ、所蔵資料の活用や他館・大学・団体等との連携を図りながら、地域との連携や地域の再発見を進める展示に力を入れる。

・ リアル＋バーチャルの融合 ・ 地域と連携する展示 ・ 県民参加の促進

(1) 特別展や企画展など年間を通じて多彩な展覧会を開催する

◇特別展「やまぐち大考古博」の開催

- ・ 山口県の歴史、文化を楽しむ展覧会をめざす

◇2つの企画展の開催

- ・ 「音ってなあに？」
- ・ 手鑑「多々良の麻佐古」

◇バーチャル博物館やオンライン授業の充実

- ・ 文化資源のデジタル化（バーチャル収蔵庫）を含むデジタル山口博物館の充実
- ・ デジタル松下村塾等の展示収蔵資料を活用したオンライン授業

(2) 教育普及活動や博学連携事業を安全かつ効果的に実施する

◇タイムリーかつ幅広い年齢層を対象とした講座の企画・実施

- ・ 感染防止対策の徹底や事前予約等による3密防止

◇MT（ミュージアムティーチャー）と学芸員の連携による出前授業等の実施

◇デジタルデータの活用による各種講座の内容充実、オンライン授業の実施・支援

◇サポーター活動に対する支援

(3) リアル・バーチャル両面の展示環境を整える

◇ホームページ上のバーチャル展示を「バーチャル山口博物館」として統合・整理し充実

◇老朽化した施設・設備の適切な維持管理

(4) 情報発信を強化する

- ◇SNS(フェイスブック、インスタグラム)による発信
- ◇展示資料や山口県に関するメモリアルデイ等を活用した情報発信
- ◇常設展・企画展における情報発信の強化

3 達成指標

(1) 総利用者数(入館・教育普及・レファレンス・出前授業)

→ 過去3年間(令和2年度～4年度)の平均値超

(2) リアル博物館満足度

◇特別展来館者満足度(とても良かった・良かった)

→ 過去3年間(令和2年度～4年度)の平均値超

◇新教育普及講座参加者満足度 → 5段階評価平均値 4.5超

◇新博学地域連携事業事後アンケート満足度(とても良かった・良かった)

→ 90%超

(3) バーチャル博物館活用度

・ホームページ閲覧件数 → 前年度超

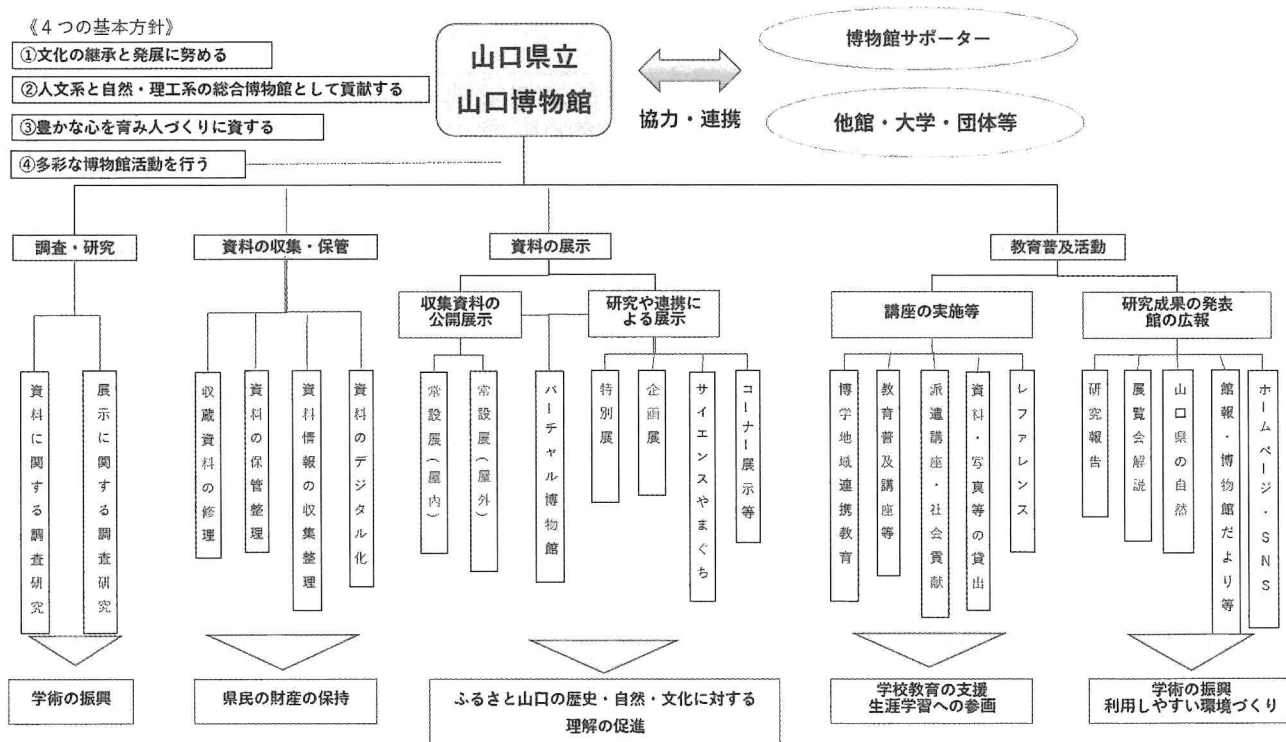
(4) 情報発信度

・記者発表件数 → 前年度超

・SNS(Face Bookやインスタグラム)閲覧件数 → 前年度超

4 機能

★山口博物館の基本方針と活動体系★



5 博物館活動の展開

基本方針を基調として、下記の各事業活動を実施する。

ア 調査・研究

調査・研究は、博物館活動の基礎となる事業である。その成果は、学術論文や当館の刊行物として公表されるばかりではなく、展示・講座・観察会などに生かされる。山口県の自然・科学・歴史を明らかにする目的で、多様な視点から研究を行う。

総合研究

山口県の自然や科学の現状と歴史を把握し、その起源と成立過程を明らかにすることを目的として、広い領域を対象とした共同研究を行う。

総合研究① 新しい時代の博物館活動に関する総合的研究

総合研究② 山口県の自然と文化に関する総合的研究

重点研究

山口県の自然・科学・歴史及び博物館活動に関する今日的な課題を総合研究の課題に準じて設定し、短期集中的に調査し研究を行うプロジェクト研究を行う。今年度は総合研究①の課題に準じて重点研究①、総合研究②の課題に準じて重点研究②の研究を行う。

重点研究① 山口博物館の歴史と新しい博物館像に関する調査研究

重点研究② 樫野川流域における歴史・自然・科学の総合学術研究

専門研究

学芸員・研究員が専門的なテーマについて、より深く探究することを目的に研究する。

担当	研究分類	課 題	内 容
岩村 (天文)	重点①	新しい時代の学校教育やボランティア活動について	「障害者差別解消法」に則した天体観望会における合理的配慮の工夫とボランティアとの連携を探る。
	専門	天体写真の撮影方法や映像のライブ配信についての研究	大型望遠鏡とカメラの接続や撮影方法について研究し、天体写真資料をデータベース化する。また観望会などで、ライブ配信などを活用して情報発信を進める。
赤崎 (地学)	重点①	興味を引き、理解を深める展示方法について	多数の鉱物資料を観点別にグループ化して展示する。興味を引くだけでなく、理解を深める展示方法について探る。
	専門	岩石資料・化石資料の収集と整理・活用について	新たに収集した資料を含めて資料整理を進め、展示や教育普及講座での活用方法を探る。
	重点①	植物分野関係資料の効果的な展示についての調査研究	スペースの限られた展示室の中で、展示物の配置や展示装置、ICT機器などの工夫によって、わかりやすく興味深い情報をより効果的に展示する。

杉江 (植物)	専門	山口県のレッドリスト改訂にともなう山口県産植物の分布調査や収集資料の見直し、及び効率的なデータベース化の研究	山口県のレッドリストの改訂にともなう山口県産植物の分布調査や収集資料の見直し、標本整理、資料のデータベース化を進め、山口県産植物の分布の実態を明らかにするとともに資料の活用を進める。
	重点①	山口県産植物に関する調査結果の県民への情報発信及び効果的な活用に関する研究	身近で貴重な山口県の植物の調査結果を発信し、また教育普及活動などで活用していくことで、植物への興味だけでなく山口県の自然への興味関心を高める。
田中 (動物)	重点②	樫野川流域における脊椎動物（哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・魚類）の生息分布調査と分布特性の解析	樫野川本流および支流ならびに流域に生息する脊椎動物全種について、生息分布状況を把握し、動物群ごとに分布特性の解析を行い、樫野川流域における脊椎動物相を明らかにする。
	専門	山口県の小型哺乳類生息分布・生態調査研究	山口県において小型哺乳類である齧歯目および食虫目の調査はほとんど行われていない。生息分布状況を把握し、山口県における生息実態を明らかにする。
	専門	天然記念物の生息実態調査	山口県に生息するヤマネについて、生息分布状況を把握し、生息実態・社会構造を明らかにする。
	専門	山口県の両生・爬虫類の生息分布・生態調査研究	山口県において両生・爬虫類の生息分布状況を把握し、山口県における生息実態を明らかにする。
	専門	山口県における中型肉食肉目の社会構造・生態および競合関係の解明	中型食肉目であるタヌキ・アナグマ・キツネ・テンは同所的に生息し、競合関係にあると考えられる。繁殖時における巣穴利用、食性比較、生息地利用などの実態を解明し、競合関係の実態を明らかにする。
	専門	山口県の無脊椎動物の標本データ解析による生息環境の変遷と希少動物種保全に向けた調査研究	山口県の無脊椎動物の標本データをまとめ、生息実態より生息環境の変遷と希少動物種保全に向けた解析を行う。
	専門	山口県の動物に関する標本・文献・情報データの収集方法の確立とデータベース化	山口県の動物に関する標本・文献・情報データの収集方法を確立し、データベース化を図る。
阿部 (考古)	重点①	山口県内の遺跡に関する調査研究	県内遺跡の情報収集や調査を行い、その価値を明らかにし、成果を次年度以降に活用する。
	専門	考古資料と文献資料の関連についての研究	当館には文献資料が主流となる歴史時代の考古資料も多く存在する。性格の異なる二つの資料を相互に関連付けて、その時代像がよりよく浮かび上がるような展示のあり方を模索し、研究する。
	専門	考古・歴史関係資料の効果的な発信について	先進的な博物館の視察等を通じて、直接手で触れたり聴覚に訴えたりする、考古・歴史関係資料の発信方法について研究する。

山田 (歴史)	重点 ①	歴史分野における古文書の効果的展示方法に関する研究	古文書の展示について、AV機器等を駆使した展示装置や解説など効果的な展示方法について研究する。
	専門	萩藩絵図方に関する調査研究	萩藩絵図方の活動や作品に関する調査研究を行う（継続）。同時に郡方地理図師有馬喜惣太の事績について調査研究を進め、講座や展示に反映させる。
	専門	絵図を利用した教育普及事業に関する研究	江戸時代の絵図を利用した街道と史跡を歩いて巡見する講座の実践と効果的開催方法を研究する。
漁 (理工)	専門	科学技術史における県内産業の位置づけとその動向	県内産業と科学技術史との関連について調査する。
	専門	理工収蔵資料体系の構築	全国的にも数少ない理工系博物館として、技術史全般を検討し、それに沿って収蔵資料を整理する。
	専門	デバイス材料の表面物性研究	表面物性科学の最先端研究や動向等を調査する。

イ 資料の収集・保管

(ア) 収集

当館の資料基準にもとづいて、資料の収集を行う。

資料の収集は原資料を原則とするが、展示の必要に応じて複製・模型・模写・写真・フィルム等も収集する。

本県の歴史や自然に関し、学術的・文化的・教育的な価値の高い参考資料も本館設の目的に照らし、その確保に努める。

(イ) 保存・管理

収集資料は、分類・整理のうえ、収蔵庫において保存・管理し、資料の保管と出納の円滑化を図る。また、定期的に資料の燻蒸消毒や全館燻蒸を実施して虫害・菌害を防止し、空調設備による温・湿度の調整を行って資料を保管に万全を期す。

ウ 資料展示

(ア) 常設展

天文・地学・植物・動物・考古・歴史・理工の7部門について、次の常設展示を行う。

- ・天文・・・宇宙の構成や隕石、天文学史などの天文資料
- ・地学・・・県内を中心とした岩石・化石・鉱物などの地学関係資料
- ・植物・・・県内を中心とした植物標本など植物生態関係資料
- ・動物・・・県内を中心とした脊椎動物・昆虫・貝類標本などの動物資料
- ・考古・・・県内外の遺跡出土品を中心とした考古関係資料
- ・歴史・・・古代から近・現代にいたる山口県の歴史を明らかにする資料
- ・理工・・・2階はロボットコーナー・科学技術史資料・未来エネルギー模型など3階は山口線運転シミュレータ等の体験ができる展示物を中心とした理工関係資料

(イ) 特別展・企画展

県民の知的ニーズに応えるため、学芸員の調査研究に基づいた企画性の高い、内容のより充実した特別展及びテーマ展を開催する。

(ウ) サイエンスやまぐち2023

青少年の科学に関する関心を深め、科学する心を育み、その研究心を振興するために「サイエンスやまぐち」を開催する。

エ 教育普及活動

生涯学習の必要性が高まり、その充実が図られている現在、博物館（学芸員と3名の長期研修教員（ミュージアムティーチャー））も児童生徒のみならず広く一般県民を対象として次の諸活動を行う。

(ア) 解説案内 要望に応じて、可能な限り学芸員やミュージアムティーチャーが展示室の解説案内を行う。また、資料等に関する質問には積極的に対応する。

(イ) 博物館教室 講習・採集・見学会など各種の学習会を企画開催するほか、各市町・公民館・団体等の要請にもとづき現地学習会を開催する。

(ウ) 広報出版 館報・研究報告・山口県の自然などの出版活動をととして、博物館活動を多方面にPRする。

(エ) 県内類似機関との連携 県博物館協会ほか類似機関との連携を図り、交流を深めながら職員相互の資質向上を図る。

(オ) 派遣講座 生涯学習充実の一翼を担うため、各市町・公民館・団体等の要請に応じて学芸員を派遣し、部門ごとに専門的な講座を実施する。

(カ) 博学地域連携 学校等への出前授業や資料貸出、教員研修などに積極的に取り組み、学校・地域との連携を推進する。

6 サポーター制度

サポーター制度により次の諸活動を行う。

(ア) 展示解説 来館者に対する展示資料の解説や案内・支援を行う。

(イ) 教育普及 講座の準備、指導補助や安全確保を行う。

(ウ) 調査研究 標本作製、データ入力、野外での採集などを行う。

(エ) 資料整理 標本や資料の整理、ラベル作成、データ入力等を行う。

(オ) サポーター講座 サポーター活動を理解するための講座を開催する。受講によりサポーター活動ができる。

7 施設・設備等の整備促進

博物館活動を充実するため、施設・設備等について計画的に整備を進める。

8 令和4年度事業概要

事業名	目的	内容
博物館運営費	博物館の運営、財産管理、学芸員の調査研究、次年度に開催する特別展の準備を行う。	1 博物館運営協議会の開催、博物館モニターの設置 2 博物館の管理運営、博物館施設整備 3 博物館の機械設備保守点検等委託 4 学芸員の資料調査、研究活動 5 特別展の出品資料調査

博物館整備事業費	博物館活動を充実するため、資料の整備、資料の購入、展示室の維持整備を図る。	1 資料展示保守点検等 2 展示資料 他
博物館学校地域連携教育支援事業	児童生徒や学校現場等に必要とされる資料と人材を提供することにより、学校の教育活動や地域団体の学習活動を支援する。また、一般県民や青少年を対象に各種講座を開始し、県民への学習活動を支援する。	1 学校や地域団体への教育支援 ・来館利用（社会見学、館内授業、職場体験）の受入と出前授業の実施 ・教材開発、学習プログラムの開発、貸出教材の充実等 ・ホームページ、メールマガジン、博物館だより等を活用した広報活動 ・教員研修の充実 2 教育普及活動 ・学習ニーズの多様化、高度化に対応した講座（歴史教室、地質めぐり等）の開催 ・青少年の体験学習や学校教育と連携した講座（動物観察会、植物教室等）の開催

9 令和5年度事業計画〈部門別〉

（令和5年(2023年)6月時点のもの）

部 門 等		行 事 名 ・ 講 座 名	実 施 日
特別展		「やまぐち大考古博」	7月21日(金)～9月3日(日)
サイエンス やまぐち	サイエンスやまぐち2023第77回山口県科学研究発表会審査会		10月12日(木)
	サイエンスやまぐち2023第77回山口県科学作品展		10月27日(金)～11月12日(日)
企画展		「音ってなあに？」	4月27日(木)～6月11日(日)
企画展		手鑑「多々良の麻佐古」	11月23日(木)～2月4日(日)
教 育 普 及 講 座 等	【天文】	はじめての星空写真	5月27日(土)
		夏の星空を見る会	8月12日(土)
		中秋の名月を見る会	9月29日(金)
		木星と土星を見る会	11月18日(土)
		ふたご座流星群を見る会	12月15日(金)
	【地学】	地学教室①「岩石・鉱物をみがいてみよう！」	6月18日(日)
		地学教室②「スライスした岩石を観察しよう」	10月22日(日)
		地学教室③「鉱物テラリウムをつくろう」	3月7日(木)
	【植物】	植物教室①「植物標本をつくって調べよう！入門編」	6月24日(土)
		植物教室②「葉脈標本のしおりやミニ図鑑をつくろう！」	8月27日(日)
		植物教室③「落ち葉や押し花でランタンをつくろう！」	11月25日(土)

教育普及講座等	【動物】	初夏の昆虫観察	6月4日(日)
		夏の昆虫観察と標本作り	7月29日(土)・30日(日)
		秋の昆虫観察	9月24日(日)
		里山の動物観察会	3月24日(日)
	【考古】	古代ウォーク	10月28日(土)
		埴輪をつくろう！	12月16日(土)
		勾玉をつくろう！	1月27日(土)
	【歴史】	古地図を片手に街を歩こう-肥中街道・山口編-	5月20日(土)
		古地図を片手に街を歩こう-萩往還・山口町編-	10月1日(日)
		手鑑「多々良の麻佐古」展示ガイド	12月2日(土)
	【理工】	ロボットプログラミング教室（初級）	6月11日(日)
		科学工作講座	8月9日(水)・10日(木)
雪の結晶をつくろう！		12月10日(日)	
ロボットプログラミング教室（中級）		2月4日(日)	
博学地域連携	博物館学校地域連携推進会議		6月30日(金)
	自由研究の進め方教室		7月8日(土)・9日(日)
	教員のための博物館の日（博物館1日体験教室）		8月18日(金)・23日(水)・24日(木)
大学連携	博物館実習		8月7日(月)～11日(金)
	インターンシップ		8月7日(月)～10日(木)
博物館協議会	第1回山口博物館協議会		11月
	第2回山口博物館協議会		2月～3月
博物館協会	山口県博物館協会理事会・総会		5月19日(金)
	日本博物館協会中国支部役員会・総会（広島県）		5月30日(火)・31日(水)
	日本博物館協会中国支部研修会		11月30日(木)・12月1日(金)
	山口県博物館協会研修会（中国支部と合同）		
	山口県博物館協会理事会		2月～3月
施設管理	全館消毒		6月19日(月)
	全館停電（休館）		10月21日(土)

※令和5年度の事業計画（次ページ以降も含む）は、令和5年6月現在のものを掲載している。

令和5年度 夏季特別展 開催要項

1 展覧会タイトル

やまぐち大考古博 ―みよう、ふれよう、やまぐちの3000年―

2 展覧会開催期間

令和5年7月21日(金)～ 令和5年9月3日(日)

(休館日 月・火曜日 ただし、7月24日(月)、8月14日(月)、8月15日(火)は開館)

3 展覧会構成(章立て等)

テーマ1 東アジア交流と弥生人の到来

テーマ2 ヤマト王権と瀬戸内の古墳

テーマ3 古代産業の先進地、周防・長門

テーマ4 「西の京 山口」から世界遺産 萩城下町へ

テーマ5 みよう、ふれよう、考古博

4 総出品予定数

約100件(予定) (重要文化財2件、県指定文化財13件を含む)

5 主催者

山口県、山口県教育委員会、「やまぐち大考古博」実行委員会(山口県立山口博物館、公益財団法人山口県ひとづくり財団、地方独立行政法人山口県産業技術センター、一般社団法人山口県観光連盟、山口朝日放送株式会社、株式会社みなと山口合同新聞社)

6 共催者

【共催】山口県埋蔵文化財センター

【特別協力】独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター、東京国立博物館
(国立博物館収蔵品貸与促進事業の支援を受けて実施します)

【協力】山口考古学会、国立大学法人山口大学埋蔵文化財資料館、山口県立山口図書館、山口県文書館、下関市教育委員会、宇部市教育委員会、山口市教育委員会、萩市、萩市教育委員会、防府市、防府市教育委員会、下松市教育委員会、岩国市、岩国市教育委員会、光市教育委員会、長門市教育委員会、柳井市教育委員会、美祢市教育委員会、周南市教育委員会、山陽小野田市教育委員会、周防大島町教育委員会、和木町教育委員会、上関町教育委員会、田布施町教育委員会、平生町教育委員会、阿武町教育委員会、下関市立歴史博物館、下関市立考古博物館、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、萩博物館、岩国徴古館、周南市美術博物館、山口県地方史学会、山口県文化財愛護協会

7 観覧料

一般 1,000円、学生・シニア(70歳以上) 650円、18歳以下の方および高等学校、中等教育学校、総合支援学校(特別支援学校)等に在学する生徒は無料

8 趣 旨

山口県は、東アジアと日本列島の海上交通を結ぶ要であり、この地には人々の往来と文化の交流による歴史が積み重ねられてきました。

約3000年前に始まった弥生時代。土井ヶ浜遺跡の人骨や貝製品、梶栗浜遺跡の細形銅剣、地蔵堂遺跡の蓋弓帽など響灘沿岸には、中国大陸や朝鮮半島からの渡来文化の影響を受けた人々の墓、青銅器などが残されています。

古墳時代には前方後円墳が瀬戸内海沿岸に集中して築造されました。柳井茶臼山古墳や白鳥古墳、天王森古墳などから出土した銅鏡や埴輪は、瀬戸内海ルートを重視したヤマト王権との強いつながりをあらわしています。

古代の周防・長門は、産業の先進地でした。長登銅山の開発とともに、8世紀には長門鑄銭所跡、9世紀には周防鑄銭司跡において和同開珎をはじめとする貨幣が鑄造されています。

室町時代、畿内・西国の覇権を握った大内氏によって、山口は繁栄を極めました。全国でも希少な金箔かわらけや朝鮮半島産の陶磁器は、大内氏の強大な政治権力と豊かな国際性を伝えるものです。また、江戸時代の城下町萩では、萩城跡や郡司鑄造所が発掘され、世界遺産の構成資産となっています。

以上のような、山口県の歴史、文化を楽しむ展覧会「やまぐち大考古博」の開催によって本県各地域の魅力を県内外に伝えることをめざします。

9 広報、イベント（予定）

・ポスター・チラシによる広報

掲出場所 県及び県教育委員会関係機関

県内市町および市町教育委員会関係機関

道の駅、県外博物館等

・マスメディア

地元テレビ局及び地元新聞社とのタイアップによる宣伝、広報、番組制作

ケーブルテレビでの宣伝広報、関連報道

フリーペーパーなどへの記事掲載協力依頼

・公的機関、県市町教育委員会

県、市町広報誌への記事掲載

県関係メディア（県政放送テレビ・ラジオ番組）による広報

県内全小学生に配布される冊子への記事掲載

・博物館だより（県内全小・中学校、特別支援学校等にメール配信）

・SNSによる発信

・県内博物館、資料館、文化施設等との連携

スタンプラリーを県内自治体と連携し開催

発掘調査体験イベント、現地見学会等の開催

・記念イベントの開催

7月23日スペシャルトーク、8月20日記念シンポジウム

サイエンスやまぐち 2023

開催要項

1 趣 旨

児童生徒たちの常日頃の研究成果を、作品の展示や研究発表会を通して広く県民の方々に見ていただく場を提供し、その成果を顕彰することにより、青少年はもとより県民の自然や科学への関心を深め、科学活動が活発となることをめざすもの。

2 主 催 山口県、山口県教育委員会

3 共 催 一般社団法人山口県発明協会、山口県小学校教育研究会理科部、山口県中学校教育研究会理科部、山口県高等学校教育研究会理化部会、山口県高等学校教育研究会生物部会

4 会 期 令和5年10月27日(金)～11月12日(日)(15日間開催) (開場時間 9時～16時30分 入場は16時まで) ※10/27(金)は総合開会式後に開場 10/30(月)、11/6(月)は休館日

5 会 場 山口県立山口博物館(山口市春日町8-2)

6 観覧料 常設展入館料に含む。一般150円(団体120円)、学生100円(団体80円)。 18歳以下及び70歳以上、小・中・高等学校・中等教育学校・特別支援学校等に在籍する児童生徒は無料。団体は20名以上。(教育・文化週間中の11月1日(水)～7日(火)は、すべての入館者が無料。)

7 内 容

児童生徒の研究成果を顕彰する取組として、科学作品展と科学研究発表会を開催する。また、開催初日には総合開会式(表彰)を行う。

(1) 第77回山口県科学作品展

自然の部 県内の児童生徒が行った自然に関する観察・実験などの研究物 約160点

創造の部 県内の児童生徒が創意工夫した生活用具や遊び道具など 約50点

審 査 令和5年10月11日(水)

(2) 第77回山口県科学研究発表会

県内の児童生徒の科学に関する研究発表作品を、資料・DVDの形で募集し、審査する。入賞作品は科学作品展の会場で公開する。

審 査 令和5年10月12日(木)

(3) 総合開会式(表彰)

科学作品展と科学研究発表会の優秀作品の表彰と、受賞者本人による解説を実施する。

日 時 令和5年10月27日(金) 10:00～10:30

令和5年度企画展「音ってなあに？」開催要項

1 趣 旨

音の正体って何でしょう。その不思議な性質に疑問をもった昔の人たちは、楽器が音を奏でる様子やさまざまな実験を通して音の正体について考えてきました。

本展覧会では、遠くまで声を届ける伝声管や、エコーがかかったように音色に変わるばね電話の音などを聞いたり、オシロスコープや音によって振動する膜上の粒子が描く図形（クラドニ図形）で音の波形を観察したりすることで、楽しみながら音の正体に迫ります。

また、私たちの生活を豊かで便利にしてきたオルガンやレコード、蓄音機など、音に関する収蔵資料を通して、これらの道具や機器の仕組みや特性を紹介します。

2 会 期

令和5(2023)年4月27日(木)～令和5年6月11日(日)
(休館日 毎週月曜日)

3 会 場

山口県山口市春日町8番2号 山口県立山口博物館 3階展示室

4 観覧料

常設展入館料に含まれます(一般 150円、学生 100円)

(18歳以下及び70歳以上、小・中・高等学校、中等教育学校、総合支援学校(特別支援学校)に在籍する児童生徒は無料)

5 展示内容

1章 音ってなあに ～音の正体～

音の正体って何でしょうか。音の正体を明らかにしてきた歴史的な実験を紹介、解説しながら、音の正体に迫ります。

2章 音を出すもの、記録するもの ～音を伝える道具など～

楽器やレコードなど音を奏でたり、記録したりする道具は、私たちの生活を豊かで便利にしてきました。この章では、オルガンやレコード、蓄音機などの収蔵資料を通して、これらの道具や機器の仕組みや特性を紹介します。

3章 音であそぼう！

エコーがかかったような声色に変わるばね電話、音の正体である振動の様子をあらわすオシロスコープやクラドニ図形など、音の楽しみ方はたくさんあります。いろいろな方法で音を表現して遊んでみましょう。

企画展

て かがみ た た ら ま さ ご 手鑑「多々良の麻佐古」 —中世大名大内氏文書の粹— 開催要項

1 趣 旨

手鑑「多々良の麻佐古」（山口県指定有形文化財）は、大内弘世（14世紀中頃）から大内義長（16世紀中頃）に至る、大内氏歴代の文書24点のほか、関係寺院、家臣の発給文書、和歌など計55点を収録した文書集です。

編者は、元長州藩士で、明治期に宮内省の要職を歴任した、杉孫七郎（1835～1920）です。この杉家は、大内氏の譜代家臣である杉氏の惣領家にあたり、豊前の守護代を世襲しました。この手鑑は、能書家としても知られる孫七郎が、かつての主家である大内氏の書跡を蒐集し、文書集に仕立てたものです。ちなみに、標題の「多々良」は大内氏の本姓であり、大内氏ゆかりの書跡を真砂（まさご、細かい砂）に例えたものです。

本展を通じて、大内弘世から義長に至る大内氏歴代当主の文書の魅力をご堪能ください。

※手鑑＝古人の書状や和歌などの書跡を集めて、鑑賞用に仕立てたもの。

※収載文書の年代＝正平12年（1357年）7月13日～永禄10年（1567年）11月16日

2 会 期

令和5年11月23日（木・祝）～令和6年2月4日（日） ※展示替えあり
9:00～16:30（入館は16:00まで）

前 期＝令和5年11月23日（木・祝）～12月24日（日）

後 期＝令和6年1月5日（金）～2月4日（日）

休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）、令和5年12月28日～令和6年1月4日。令和5年12月25日～27日は展示替えのため閉展。

3 会 場

山口県立山口博物館（山口市春日町8-2）

4 主 催

山口県立山口博物館

5 観 覧 料

常設展観覧料に含む（一般 150円、学生 100円）
＊70歳以上、18歳以下の方及び高等学校・中等教育学校・総合支援学校（特別支援学校）等に在学する児童生徒は無料。

6 出品資料

22点（前期11点、後期11点）

7 関連講座

【歴史講座】 企画展「手鑑『多々良の麻佐古』」展示ガイド

日 時： 令和5年12月2日（土） 13:30～15:00

講 師： 元山口県文書館専門研究員 和田 秀作 氏

会 場： 山口県立山口博物館 別館講座室

定 員： 30名（要申し込み）

受講料： 無料

8 問い合わせ先

山口県立山口博物館（担当・山田）

〒753-0073 山口市春日町8-2

電話(083)922-0294／FAX(083)922-0353

<https://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/>

常設展示 入館案内

開 館 時 間 9時～16時30分
(入館は16時まで)

閉 館 日 ① 月曜日(当日が祝日の場合は火曜日)
② 年末年始(12月28日～1月4日)
③ 全館停電日
④ 全館消毒日

常設展示観覧料

区 分	個人	団体(20人以上)
一 般	150円	120円
学 生	100円	80円
無 料	(1) 生活保護を受けている者 (2) 身体障害者(身体障害者手帳の交付を受けている者)及びその介護人 (3) 戦傷病者(戦傷病者手帳の交付を受けている者)及びその介護人 (4) 高齢者(70歳以上の者) (5) 知的障害児者(療育手帳の交付を受けている者)及びその介護人 (6) 精神障害児者(精神障害者保険福祉手帳の交付を受けている者)及びその介護人 (7) 小・中・高の児童生徒の団体観覧の引率教員 (8) 教育・文化週間(11月1日～7日)期間中の全入館者 (9) 18歳以下の者及び高等学校、中等教育学校、総合支援学校(特別支援学校)等に在籍する児童生徒	

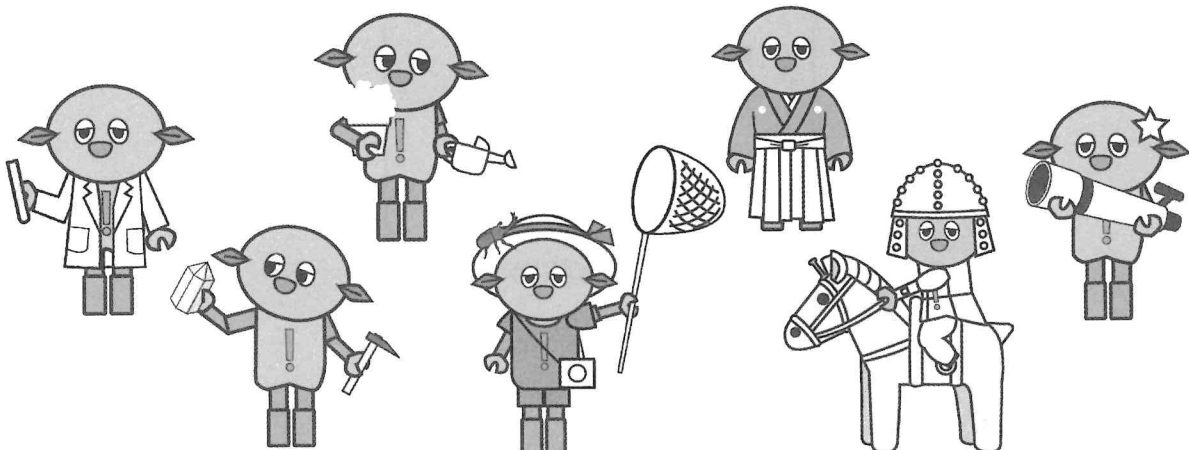
(特別展の場合は観覧料が変わります)

常 設 展 示 内 容 天文・地学・植物・動物・考古・歴史・理工
場 所 〒753-0073 山口市春日町8番2号
(バス利用) 県庁前下車徒歩4分

TEL (083) 922-0294

FAX (083) 922-0353

URL <https://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/>



発 行 令和6年2月

発行者 山口県立山口博物館
山口市春日町8の2

☎ 083-922-0294

FAX 083-922-0353

印刷所 備いづみプリンティング